同窓会報

（第52号）

発行：〒260-0853
千葉市中央区葛城１－５－２
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長　林　孝二郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551

印刷：有限会社 プリントピア
TEL. 043-301-6500

ご挨拶

同窓会会長　林　孝二郎（昭和39年卒）

千葉高同窓会の皆様、新緑がまぶしい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

日頃から同窓会事業にご協力をいただき感謝申し上げます。我が国では、コロナ感染がようやく大きな山を越えて、感染予防と経済の回復の両立が叫ばれており、同窓の皆様の中にも今年こそとの思いで計画を立てている方も多いかと思います。

昨年の同窓会の活動を振り返ってみますと、例年2月に開催されていました総会・懇親会はコロナウィルス感染拡大の影響で一昨年に続き2年連続して中止となりました。感染の終息を期待して懇親会だけは8月に開催したいと頑張りましたが残念ながら開くことができませんでした。

また、各地の葛城会なども軒並み中止となり、残念ながら私も出かけて行って同窓の皆様と懇談する機会がなくなってしまいました。このような中にあって成人記念同期会については1年延期されていた71期の会、そして72期の会を開くことができましたことは何よりでした。

同窓会報についても総会等でお配りできなかったものの郵送で多くの同窓生に送ることができ、会報への寄付金も一昨年に引き続き大きな寄付をいただきましたこと、感謝申し上げます。また、昨年の理事会で同窓会基金の内容を整理し有効適正に活用できるよう同窓会会則と細則を改正したこともご報告させていただきます。

さて、今年に入って1月には73期卒業生の成人記念同期会を実施し、2月の総会・懇親会もコロナ感染で開催が難しい状況でしたが、アルコール抜きの昼食会という形ですが開催することができました。同窓会のデータベースには今年の卒業生311名を加え3万8千名余の方が登録されており、適正な管理と充実に努めております。同窓会報についてはこれまで総会でお配りできるよう発行してまいりましたが、理事会で審議した事項を十分に記載することができないため、今年から4月に発行することに改めましたのでよろしくお願いします。

今年も卒業、入学のシーズンとなりました。コロナウィルス感染の影響でいろいろと制限の多い卒業式でしたが、毎年私もお招きいただいております。卒業式や成人記念同期会に出席して感じることですが、母校の女生徒の割合がとても大きくなったことが印象的です。クラスによっては女性のほうが多いようで、クラス50人中1割程度だった私たちの時代とは隔世の感があります。

最近、世界経済フォーラムによる「ジェンダーギャップ指数2022」が発表され、日本は146ヵ国中116位で女性の社会進出という点で世界に大きく遅れていることが報告されました。こんな中で、今年1月に昭和56年卒業の畝本直美（旧姓木村）さんが女性初の東京高等検察庁検事長に就任されたという嬉しいニュースがありました。少子化、高齢化で活力の低下が心配されている我が国ですが、男女共同参画社会を目指し女性のパワーが十分発揮できる社会にしていくことが大変重要ではないかと思います。母校のOGたちが新しい芽となり活躍することを大いに期待するところです。

このところ教育改革の議論が様々に行われており、新たな政策も打ち出されております。母校の教育現場でも大きな変化にどう対応していくかご苦労があるものと思います。同窓会としても母校教育の発展のために引き続き支援を充実していきたいと思います。

最後になりますが、同窓の皆様のご健勝および各地域や職域等での同窓生の交流が再開できることを祈念するとともに、本年も同窓会の運営に変わらずのご支援、ご協力をお願い申し上げご挨拶といたします。

同窓会報第52号 もくじ

ご挨拶……会長 林 孝二郎 1
校長報告……学校長 佐藤晴光 2
会報によせて 葛の花会長 永田忠以 3
運営に思う……事務局長 阿佐幸雄 3
会報寄付者一覧 4
支部だより 5
OB会だより 7
学年短信 10
母校支援報告 19
葛城人脈⑧ 20
令和5年度 定時理事会報告 22
チャレンジ基金／母校の活動報告／葛城だより 24

県立千葉中学校・高等学校近況

校長　佐藤晴光

千葉高等学校同窓会の皆様には、日頃から物心両面からの温かい御支援を賜り、心から感謝申し上げます。図らずも加藤俊文校長の後任として、昨年四月から重責を担わせていただいております佐藤と申します。

さて、令和元年の年末から世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症は、未だ終息の兆しを見せず、学校教育を始め様々なところで、これまでの活動が制限されております。その一つに、各地域等で開催されていた同窓会の集まりに、一度も出席することが叶わないことが挙げられます。皆様方と直接お話しできる機会を得ないまま一年が過ぎようとしていることが残念でなりません。そこで、少しでも本校の歴史や伝統、校風の変遷を理解できればと思い、「創立百年」を愛読書代わりにさせていただいております。読み進める度に、本校が歩んできた幾多の困難や、それを乗り越え築き上げられた歴史に触れることができ、卒業した皆様方の母校に対する誇りと愛情、そして後輩たちへの期待を強く感じることができます。

私は皆様方と同窓ではありません。また、本校勤務経験もありません。しかしながら、平成十五年から県教育委員会勤務がおよそ続いていたため、長きにわたり、電車内や本千葉駅周辺での千葉高生の様子を見てきました。これまでも時代と共に変容する姿は認められましたが、ここ数年の変化率は激しいものと、正直感じております。もしかすると、長引くコロナ禍の影響かもしれませんが、同時に、教育界の変革スピードが速いことも原因と思われます。今回の改革は、戦後の学制改革を凌ぐとも言われますが、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０の時代に、産業構造が大きく変化し、また、我が国の国際競争力の低下への懸念からくるものであります。

こうした時代に、伝統ある千葉高校の校長というその責を、日々重く受け止め、次の十年、五十年、どう発展させていくかを思考する毎日が、続いています。どうか温かい目で見守りいただき、諸先輩方の御理解をいただきながら次の時代に向けて進んでいきたいと思います。

ここで、同窓会の皆様にお礼を申し上げます。外部講師講演会での講師を快く引き受けてくださったことを始めとし、大学訪問での先輩方の案内や座談会など、コロナ禍にも関わらず、在校生に対し懇切丁寧に接していただきました。この場を借りて衷心より御礼申し上げます。

次に、行事関係について報告させていただきます。この一年間、コロナの感染状況を見極めながら、できるだけ平常時に近い活動をしようと、職員一同頑張ってきました。保護者参列の下、挙行できた入学式、一部制限はありましたが、外部の方も参加することができた千秋祭や体育大会等、コロナ前の活気が少しずつ戻ってきました。秋には、中高共に関西方面への修学旅行を無事実施いたしました。また、ここ三年間中止となっていた、中学三年生の海外異文化学習は、ドル高の影響もあり、方面を、米国からシンガポールに、さらに期間も三泊五日に短縮するなど、これまでの計画を大きく変更することを余儀なくされましたが、何とか実施できることとなりました。

部活動等においては、生徒たちはコロナにも負けず、大変頑張っています。弓道部は、関東大会千葉県予選で、男子団体優勝（関東大会出場）、続く全国高校総体千葉県予選でも見事に優勝し、インターハイ出場を果たしました。さらに、新人戦でも、男子個人で優勝するなど、目覚ましい活躍を見せました。文化系では、囲碁部が県の総合文化祭及び全国高校選手権千葉県大会で、女子個人優勝・第二位、男子個人第二位、女子団体優勝、さらに秋季大会でも、女子個人優勝、男子個人第三位、女子団体優勝（いずれも関東大会に出場）という活躍でした。将棋部は、県の総合文化祭及び全国高校選手権千葉県大会で、女子団体Ａ級優勝、全国大会出場を果たしました。書道部は、県の総合文化祭書道作品展で優秀賞となり、令和五年度全国総文祭に出品することが決定しております。合唱部は、夏の千葉県合唱コンクールで金賞に輝き同時に千葉県教育長賞、全日本理事長賞も受賞し、関東大会出場を果たしました。また、千葉県合唱アンサンブルコンテストでは、女声で見事一位に輝き、三月に福島県で行われる第十六回声楽アンサンブルコンテスト全国大会に出場することが決定しました。地理部の生徒は、ポルトガルで実施された、ジュニア世界オリエンテーリング選手権に、日本代表として出場しました。

最後に施設、設備関係についてです。教育のＩＣＴ化が進む中、県によりＢＹＯＤ用に各教室にＷｉｆｉが整備され、授業等で生徒のスマホやタブレットが自由に使えるようになりました。また、県立中・高等学校の先陣を切って、中学棟のトイレが洋式化されました。高校棟の老朽化は進む一方ですが、教育活動の更なる発展を目指し、安全で安心な環境づくりに努めてまいります。

引き続き、教職員一丸となって、千葉県のフラッグシップ校として発展させてまいる所存ですので、同窓生の皆様方には、本校教育活動への一層の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

同期の葛の花

葛の花会会長　永田忠以（昭和37年定卒）

定時制卒業生同窓会組織である「葛の花会」とは別に、昭和三十七年に卒業した私達には同期会があります。「三十七会」という名前で発足され、現在では「千一夜会」と名を変え、現在でも年一度の集いの場を設けています。

当時の定時制の多くは勤労学徒であり、未成年のみならず成人に達した者もおり、様々な人間が通学していました。その職種は多様であり、川崎製鉄所（現ＪＦＥ）、自衛隊、警察、県庁、市役所、国鉄（現ＪＲ）など富むものです。時代ということもあるでしょうが、成人の学生は学内に設置された喫煙所にて喫煙する人もおりました。勤め先、年齢、それぞれの抱える環境は違えども、千葉高への坂を共に登下校していたのは良き思い出です。

このように多様な人間が集まる定時制でありますので、印象に残る人やエピソードが多くあり、ここに幾つか紹介させていただきます。まず、ねずみ駆除の研究をし、のちに起業し大企業にまで成長させた同期がおり、当時の私も川鉄の倉庫のねずみ駆除に行った覚えがあります。また日本冷蔵（現ニチレイ）に勤めていた人とは倉庫に保管されている氷柱を見学しようと入ったはいいがうっかり扉を閉めてしまい、巡回が来るまで、身体を動かしては凍死しないようにと極限に身を置いたのは今でも苦い思い出です。そして国鉄の機関車の運転手をしていた同期もおり、彼が石炭を込めて運転する煙のぼる列車に本千葉駅から行き来することもあり、同期との思い出話は尽きません。これら経験ができたのも、定時制という学び舎があったからこそだと思っております。

同期のみならず、先輩後輩も皆一家族のように過ごしたことをこのように思い返すのは、近年になるとその仲間たちの中に散り逝く人が多くなり、その思いを馳せて寂しくなってきていることもありますが、当時を懐かしむ思い出が多々あることは母校に感謝しなければならないでしょう。

同窓会事務局の運営に思う

同窓会事務局長　阿佐幸雄（昭和35年卒）

例年「事務局の近況」を報告していますが、今年は林会長が詳細に書いていますので、運営について書きたいと思います。

同窓会との関わり

平成９（１９９７）年に１２０周年版同窓会名簿編集委員長の霜礼次郎先輩（昭31卒）より副委員長に指名されて同窓会に足を踏み入れました。その後平成14（２００２）年２月総会で１２５周年記念事業実行委員会事務局長を霜会長から指名され就任しました。

平成14年４月に実行委員会を立ち上げて、９月から翌15年８月までの１年間で５０００万円の寄付を募集、１７８１名の方々から５６２２万円のご寄付をいただき記念館改修工事、トレーニングルーム、校歌碑、ビオトープ他の事業も17年３月在校生への講演会を開催して、３年間ですべて無事終了することができました。

翌平成18（２００６）年同窓会総会で同窓会事務局長を拝命しましたが爾来17年になります。

同窓会事務局の仕事

私が事務局長になる前の同窓会事務局は、最年長の同窓教員が事務局長をされていました。

千葉高の校務分掌には、同窓会という文字は入っていないそうで、同窓会の仕事はすべてボランティア行為ということになります。

事務局の仕事には次のようなものがあります。毎年事務局次長さんが担当者を指名しておりますが、内容は変わりません。

(1)同窓会事務局の運営
①会計・会計監査
②同窓会報
③名簿管理
④その他（卒業記念品など）

(2)同窓会理事会・総会の準備
①会計報告・予算案
②事業報告・事業案
③出欠確認
④資料作成・会場設営

(3)その他（交流事業など）
①親睦（職員の歓送迎会等）

これらすべての事務作業を事務局の先生方がボランティアで行っておりました。事務局の部屋はありませんので、先生方が引き継いだ資料等をそれぞれ管理されていました。

平成18（２００６）年最初の仕事は「平成18年度総会」で提案する「平成18・19年度役員改選案」の作成でした。

改選案の同窓会役員は、霜礼次郎会長、全日制と定時制両方の卒業生であった増田忠彦副会長（昭21卒・昭26定卒）の２名。事務局は局長の私と岩澤泉次長（昭41卒）ほか８名の先生方でした。

同窓の先生がた　千葉高に戻って！

その後事務局を支えて頂いている同窓の教員の数は増加しましたが、近頃また急激に次のように減少しています。（敬称略）

【平成20年度】会長：霜礼次郎、副会長：永田忠以（昭37定卒）、事務局：竹田徹（昭46卒）次長**他10名**

【平成22年度】会長：霜礼次郎、副会長：永田忠以・鈴木一郎（昭35卒）、事務局：竹田徹次長**他14名**

【平成24年度】会長：霜礼次郎、副会長：永田忠以、鈴木一郎、櫛部健夫（昭44卒）、事務局：五木田純次長（昭48卒）**他17名**

【平成26年度】会長：鈴木一郎、副会長：櫛部健夫、戸谷久子（昭46卒）、先田幸次郎（昭49定卒）事務局：五木田純次長**他18名**

【平成28年度】会長：鈴木一郎、副会長：櫛部健夫、森茂（昭44卒）、戸谷久子、先田幸次郎、事務局：末永明次長（昭50卒）**他16名**

【平成30年度】会長：鈴木一郎、副会長：林孝二郎（昭39卒）、森茂、戸谷久子、先田幸次郎、事務局：渡邉智之次長（昭53卒）**他14名**

【令和２年度】会長：林孝二郎、副会長：森茂、戸谷久子、先田幸次郎、池田知行（昭54卒）、事務局：能勢智次長（昭54卒）**他12名**

【令和４年度】会長：林孝二郎、副会長：森茂、戸谷久子、先田幸次郎、池田知行、事務局：川島康行次長（昭58卒）**他６名**

同窓会事務室ができたと言っても常時居る訳ではありませんし、やはり同窓の先生の手を借りなければ同窓会は機能しません。数の減少は同窓会の危機です。

平成28年度から、総務、名簿、企画、広報の４常設委員会が機能してきました。現在では校外の委員長・副委員長が事務局の仕事を分担して頂いていますが…。

千葉高同窓教員の情報をお教えください！

会報寄付者一覧

（敬称略・卒年順）

1万円以上の寄付者名は**太文字**

自動車部有志一同
袖ヶ浦CGC
千葉高OB会

【昭和９年】
田辺雄次

【昭和17年】
池田佐嘉衛

【昭和18年】
佐藤希志雄

【昭和20年】
中村彰

【昭和22年】
伊勢本一郎
斎藤喜久三
高橋惟允

【昭和23年】
小出善三郎
髙長谷禮司

【昭和25年】
矢島肇

【昭和26年】
能勢仁

【昭和27年】
中村作二

【昭和28年】
阿部猛
相京溥士
瓜生任之
仁茂田豊生
松浦礼三
松本啓

【昭和29年】
塙登志也
吉田千世子
吉田智良

【昭和30年】
宍倉正胤

【昭和30年定】
山下庸明

【昭和31年】
安達厚見
赤塚光朗
石田甫
片岡環之
高橋宏
三木敏晴

【昭和31年定】
髙澤正

【昭和32年】
臼井日出男
碓田美夫
小林礼子
瀬田寛子

【昭和33年】
磯貝正治
板倉章治
岡本裕之
片倉透
川瀬實
小菅勝邁
佐久間幸
篠崎玄一
白鳥吉一
瀬山俊一
高仲達也
土屋冨士雄
根岸修子

【昭和34年】
浅井倶子
石井豊信
小林英夫
椎名哲也
長島澁
鎌田修

【昭和35年】
木下宣世
茂田徹
高橋淳一
土肥一洋
富澤誠二
三橋裕

【昭和35年定】
長谷川禎一

【昭和36年】
北島康史
斎藤浩一
服部孝道
山田智秋

【昭和36年定】
林功

【昭和37年】
大鶴英嗣
押尾勝衛
神田駒井隆子
中村宏
藤田彰
堀野雅子
間山素行
本間充武

【昭和38年】

【昭和39年】
根本尚武
宮原忍
宮本四洲雄
赤桐毅一
石橋明子
石渡昌夫
植草健夫
上平隆治
内田啓一郎
大森耕一郎
佐々木宏
澤喜藏
市東宏子
白石和子
土肥哲英
長谷川利弘
林孝二郎
林茂範
松田
村杉雅敏
矢口譲二
山口光濟
山田雅敏
伊澤勝行

【昭和40年】

■ 同窓会報の個別配布・寄付状況

年　度	令和４年度	令和３年度	令和２年度
会報号数	第51号	第50号	第49号
発行部数	7,500	6,500	8,000
個別配布数	5,300	4,000	3,800
寄付人数	230	231	176
寄付金額	1,411,000	1,471,000	866,000

※ 本年の第52号は、8,000部発行、個別6,000部の予定

【昭和41年】
齋藤友博
島田久夫
鈴木亮二
千葉右子
那須初江
西川哲男

【昭和42年】
大熊廣明
嶋野勝美
松崎昇

【昭和43年】
喜田茂
吉清裕行
中田善樹
槇一光
山本和夫

【昭和43年定】
内藤佳實

【昭和44年】
曽我辺千枝子
高槻典代
高梨良治
髙橋薫
武田文夫
土屋純
冨永正道
西山恒夫
野呂忠秀
塀和光二郎
板倉喜一郎
伊藤兼六
宇田川民江
太田芳則
佐瀬俊之
沢田茂
仲田正躬
林美智代
藤倉國男
松永三和子
宮間暎治
和田正民

【昭和45年】
岡田美樹
関根新
高倉史朗
武田浩一

【昭和45年定】
浪方日出男

【昭和46年】
泉和光
上原和男
枝松宏明
岡真
種谷和信
松本美智子
山田秀二
湯川昌彦

【昭和46年定】
佐藤鼎

【昭和47年】
今関文夫
鵜澤実治
川島文代
岸高清
西原美穂子
豊田淳郎
平岡映子
山室三枝子

【昭和48年】
篠崎賢一

【昭和48年定】
大塚眞由美

【昭和49年】
羽田徳治
藤縄和代

【昭和50年】
岩崎義宣
長谷川恵子
長谷川康行
長谷川博
羽田達夫
松浦健夫
松田和紀
丸岡祥代

【昭和51年】
奥田桂子
島田典生
須藤輝男
松隈惣一
山本喜一

【昭和52年】
梅田公利
竹澤容子
長谷川和良

【昭和53年】
小口学
児玉信一

【昭和54年】
阿部道郎
小川洋二
松村謙一郎

【昭和55年】
大澤正明
白井護
丸山敬子

【昭和56年】
國吉康夫
宍倉知広
常包滋也

【昭和57年】
山田智之

【昭和58年】
関谷岳久
三浦亜紀

【昭和59年】
谷川元
土橋久恵

【昭和60年】
宮本潤一
矢口宏

【昭和62年】
岩堀英一
品川陽子
武田直也
西村克樹
米山章弘

【昭和63年】
小松由佳
平井勇一

【平成２年】
小林靖茂

【平成３年】
足立知也
武田真一

【平成４年】
稲田恵美
上園哲司
佐藤雅信

【平成５年】
二見英知

【平成６年】
飯田正仁

【平成12年】
戸村理
吉本一紀
依田美佐恵

【平成13年】
川崎仁寛

【平成18年】
鹿渡俊介

【平成29年】
田島裕太

【平成30年】
平井昂也

【平成31年】
江口航志
守田怜

【令和２年】
松葉みさき

【令和３年】
川田真莉菜
佐々木雄飛
新保美月
野々瀬一毅

支部だより

☆東京葛城会

事務局長　桑野雄一郎（昭和60年卒）

新型コロナウィルス感染症の影響により、令和４年度も東京葛城会の総会・懇親会は残念ながら中止となりました。

しかしながら、上野精養軒と接続する形も含めてオンラインでの開催にとどまっていた幹事会は、12月２日に対面での開催をすることができました。

残念ながら出席者数は以前より少なめではありましたが、久しぶりに顔を合わせて食事をしながら懇談をすることができました。

この幹事会においての協議も踏まえ、今年は久しぶりに総会・懇親会を対面の方式で開催するべく、10月13日に上野精養軒を予約いたしました。

コロナ禍での高校生活が長期化し、教職員や在校生の皆さんも様々な不安を抱えて学校生活を過ごされていることと思います。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの支援をしていきたいと思っているところです。

なお、昨年もご案内をいたしましたが、東京葛城会のウェブサイトでは、東京近辺で働く同窓生の素顔を紹介するページを設けています。現在昭和47年卒の長島弘明さん（東京大学教授、日本古典文学）及び渡辺裕さん（東京大学大学院人文社会系研究科、美学芸術学・文化資源学）をご紹介していますが、いずれも楽しい内容となっていますので、お時間のあるときにご覧いただけると幸いです。

☆養信会（市原支部）

会長　鈴木雅博（昭和33年卒）

同窓会報の原稿依頼を頂き、養信会の開催が長い間実現できていないことを、会長として改めて残念に思います。

新型コロナに加えインフルエンザも流行しています。それぞれ身近にも陽性者が出ており、多くの死者数にも不安が募ります。早い収束を願うばかりです。

前号の同窓会報では、市原歴史博物館の開館が予定されていることをご紹介しましたが、昨年11月20日にオープンいたしました。拠点施設としては、愛称アイミュージアムセンターと歴史体験館があり、常設展示場には、市原市にある稲荷台一号墳から出土された国産最古の有銘鉄剣「王賜」銘鉄剣が国立歴史民俗博物館から里帰りしました。窒素を注入して錆を防止するなど、最新の設備により展示されています。他にも、江戸時代から昭和初期まで活躍した五大力船の実物の舵にＣＧ映像を重ね、その船を直ぐ傍で見ているような体験もできます。

また、歴史体験館では、古代住居、古墳、納屋風建物、発掘現場などが再現されています。

ぜひこの市原歴史博物館（市原市能満１４８９　電話０４３６・４１・９３４４）に足を運び、市原市の歴史遺産に関心を持って頂ければ幸いです。

皆様のご健康、ご多幸をお祈りいたします。

☆東金葛城会

会長　佐久間　邁（昭和33年卒）

令和２年から三年間、新型コロナウイルス感染禍で同窓会活動の自粛が続いていますが、年配の同窓生を中心に、そろそろ顔を合わせたいとの要望が寄せられてきております。

昨年の支部だよりでは幕末から明治に活躍した東金生まれの郷土の偉人関寛斎について紹介させて頂きましたが、昨年末に講談社から「コレラを防いだ男・関寛斎」（柳原三佳著）が出版され、今から百六十年以上前に当時江戸で大流行したコレラから関寛斎が浜口梧陵の支援を得て銚子の町を守ったという話を中心に描かれ、改めて注目されております。

この中で関寛斎は『コレラ予防対策八か条』として生水、生ものを口にしないように、水は必ず沸かして飲む、魚は加熱して食べる、食器や箸など熱湯につける、手をこまめに洗う、吐いたもの、下したものには触れない、厠の周りに石灰をまく、そして最後に「体力をつけること」と看板に掲げ銚子の町の人々に徹底させました。

ロベルト・コッホが「コレラ菌」を発見する二十五年も前のことだそうです。

このことは現在の新型コロナ感染対策にも当てはまることであり、予防策を徹底し、また同窓会活動等が安心して実施できることを願っております。

東金関寛斎顕彰会（会長木村卓先輩（昭和31年卒）・事務局宇野英雄君（昭和45年卒））では「関寛斎を取り巻く幕末の医師たち」と題し、令和５年２月18日と３月２日の両日の午後、東金文化会館で講演会を開催する予定です。感染拡大防止策を十分講じての開催との連絡ですので支部会員も参加を楽しみにしております。

☆成田葛城会

岡田秀彦（昭和54年卒）

「歯医者さんで定期検診を受けていますか？」成田葛城会から会員の皆様に歯科検診の重要性についてお知らせいたします。

政府の「骨太方針２０２２」の中で生涯を通じた歯科検診（国民皆歯科検診）が義務化されたことをご存じでしょうか。歯科医院は虫歯が痛くなったら治療してもらう所と大部分の方がイメージしていると思います。医

学の進歩により、寝たきりとなった方の医療費が年々増加して財政を圧迫し、国として如何に健康寿命を延ばすかが重要な課題となっています。

今、全身の病気の多くが歯周病を原因としたり、重篤化させたりすることが分かってきています。歯周病は細菌感染症の一つで、これにより歯肉が常に炎症を起こし、歯周病菌が歯肉粘膜を通して体内に侵入している状態です。アルツハイマー型認知症、脳血管障害、心臓血管疾患、食道癌、誤嚥性肺炎、インフルエンザ、新型コロナ、バージャー病、掌蹠膿疱症、脂肪肝、糖尿病、潰瘍性大腸炎、肥満、低体重出産など非常に多くの疾病の原因が歯周病菌であることが分かってきています。

治療として歯石取りは当然としても、毎日増え続ける菌を毎日無くなるようにブラッシングを行うことが最も重要です。治療したから治るわけではなく、毎日プラークを落とし続けることが、治療となります。つまり治療はご自身で行うわけです。ですので、3か月に1度は、歯科医院を受診し、ブラッシングが正しく行われているか確認してもらってください。

☆佐倉葛城会

事務局長　荒井茂夫
（昭和45年卒）

長引くコロナ禍の影響を受け、残念ながら令和4年度の佐倉葛城会総会は3度目の中止を決定せざるを得ませんでした。幹事会でも皆さん〝来年こそは〟との意気込みが強く、数名ではありましたが今回の幹事会&懇親会は久しぶりに大変盛り上がりました。コロナが落ち着きましたら、うっぷん晴らしも兼ね、1泊の温泉旅行での総会を企画したいと思っています。

一方、佐倉の秋祭りが3年ぶりに開催されました。佐倉の秋祭りは、鍵の手のような城下町を山車、御神酒所（屋台）、千葉県最大級の神社大神輿が練り歩く華やかなお祭りです。古くから「麻賀多神社祭禮」が母体であり五穀豊穣に感謝する秋祭りで、江戸時代に土井利勝が佐倉城を築くと、佐倉城大手門の近くにある麻賀多神社は佐倉藩の総鎮守となり、その神社の祭禮は歴代藩主の加護の下に発展しました。

秋祭り開催の時期になりますと佐倉を離れて生活していた方も祭りを楽しむ為に皆さん地元佐倉に戻ってきます。佐倉葛城会の会員の方にも祭り好きが多く、私も麻賀多神社役員でもあり氏子総代でもありますので、祭りの時期は準備の頃から燃え滾る血を抑えきれません。又、佐倉葛城会の山田会長は江戸囃子の先生で、お囃子の技術向上、後継者の育成に活躍されています。

依然としてイベント開催に関しては佐倉市も厳しいコロナ規制がありますがPCR検査や抗原検査を実施しながら、佐倉警察署のご協力もあり昨年は何とか秋祭りを開催することができました。今年こそは佐倉葛城会総会が開催できる事を心より願っています。

☆千友会
（千葉県庁千葉高同窓会）

幹事長　高梨みちえ
（昭和58年卒）

千葉高を卒業した千葉県庁職員による「千友会」ですが、令和元年の台風・大雨による影響で総会を延期（のち中止）して以降、新型コロナウイルス感染症により、令和2年度、3年度も活動ができず、今年度も総会・幹事会共に開催は難しい状況が続いています。

ひとたび災害や新興感染が発生すれば、県庁あげての対応が求められることは当然ですが、特に新型コロナに関して言えば、県民の皆様に感染防止対策をお願いしている側として、多人数となる任意の集まりは差し控えざるを得ず、いつも総会で行っていた御勇退された千友会OBの方々への御礼の機会も作ることができていないことは、非常に残念に思っております。

新型コロナの影響で、貴重な高校生活3年間を不自由な思いで過ごすことになってしまったであろう後輩の皆様が、先生方と協力しながら工夫を重ね、学校生活を充実したものにしようと努力をされていると伺っています。当たり前の日常が当たり前でなかったと気づかされるのには、長く大きすぎる状況でしたが、その中でもできることを積み重ねられている母校の「頑張り」を、誇らしく、頼もしく思っておりました。

令和2年の年頭から始まった新型コロナウイルス感染症の対応も4年目となりますが、千葉高の先生方、生徒の皆さんに負けないよう、今年こそ徐々に活動再開の準備を進めていきたいと思っております。

☆千葉市役所葛城会

会長　折原　亮（昭和59年卒）

千葉市役所葛城会は、現在会員約80名、例年1月～3月に総会・懇親会を行ってきましたが、令和2年1月の開催以来、コロナ禍で会員間の交流が出来ない状態が続いております。

コロナの影響が三年に及び、職域での多人数の懇親会や歓送迎会も未だ開催がかないませんが、今年こそ徐々にでも、顔を合わせた交流や情報交換を再開していきたいと考えております。

葛城会の良いところは、総会・懇親会で、市役所のいろいろな所属の先輩・仲間と知り合い、話が出来て、中締めでは、校歌（袖が浦辺の明けくれに）と、戦歌（葛城健児いざやいざ）を熱唱し、同窓生の絆を深められたことだと思います。

職場のコミュニケーションは、以前の対面や電話から、現在はメールやメッセージ送信が多用され、少人数の顔の見える双方向の関係よりも、多人数との顔の見えにくい一方通行の関係になりがちではないかと思います。

このようなデジタルな時代だからこそ、アナログな時間と場所と想いを共有する顔の見える交流はとても大事だと思います。本年が、千葉市役所葛城会と、千葉高校同窓会の全ての皆様が、ご健康で、幸多く、多くの交流と情報交換できる年となるよう、心から祈念いたします。

千葉高校同窓会の役員・事務局の皆様には、同窓会報の発行や、2月4日の同窓会総会・昼食会の開催など、校友のための多大なご尽力に感謝いたします。

☆ゐのはな一杯会

（千葉大学医学部）

会長　田邊　政裕（昭和42年卒）

今年度は千葉大学医学部に新入生3名を迎えましたが、コロナ禍で対面の一杯会が開催できませんでした。

千葉大学医学部（本学）の歴史について紹介させていただきます。本学の前身の最初は千葉町、登戸村、寒川村等の有志者の拠金等により千葉町本町一丁目に１８７４年（明治7年）に建てられた共立病院とされています。この病院の院長には佐倉順天堂の佐藤尚中の門弟、二階堂謙が就きました。１８７６年（明治9年）に至り、千葉県より２６０余円の交付を受けて、共立病院は千葉町吾妻町三丁目に移設され、公立千葉病院と改称しました。病院は県費をもって運営され、医学教場が付設されて医学教育が開始されました。千葉病院はそれ以降、県立千葉医学校、第一高等中学校医学部となり、１８８９年（明治22年）に千葉町猪鼻台上の現在の地に移転しました。その後も本学は第一高等学校医学部、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部と昇格と発展を重ね、地域医療に貢献してきました。

本学は２０２４年（令和6年）で創立１５０年を迎えます。ゐのはな一杯会の名簿（２０２１年版）には、この期間に千葉中学、千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医学専門学校、千葉医科大学、千葉大学医学部及び附属病院に在籍、在籍中の医師及び学生７１０名の会員がリストされています。これまでの歴史を礎に会員同士の親睦と連携、協力により、更に会が発展することを期待します。

○Ｂ会だより

☆自動車部の思い出

三宅　茂（昭和30年卒）

私が今は亡き自動車部に入部したのは、2年生になってからでした。幼少の頃からクルマが好きで、3輪車は買ってもらえたのですが、丸ハンドルの付いた4輪車は、高価でとても手が出なかったようです。それが高じてからか、先の入部に繋がっているのかもしれません。

旧校舎の地下室に部室と１９３６年製ダイハツの自動3輪車が同居していました。それを放課後、校庭に持ち出して先輩の指導を受けながら、部員交互に練習するのですが、右のバーハンドルのアクセルレバーとガソリンタンクを跨いだ左足でクラッチペダルを操作するが、クラッチを上手くミートしてやらないと、直ぐにエンストする。そうすると、現代車のようにセルモーターが備わってないから、足でキックして、エンジンを再起動しなければならない。これが又一苦労、始動しそこなうと、ケッチンと言って、ペダルで向う脛をいやという程叩かれる。これが痛いの何の、当時は、今と違って体重が50kgそこそこだし、ケッチンをグッと押し込む術なんかも知らなかったから。そして、先輩には、下手くそと、怒鳴られながら、発進停止の練習をしました。その次は、校門前の坂道で坂道発進の練習、これは、先の平地での発進に左手でサイドブレーキを握って、練習するのですが、上手く発進出来なくて、後退するとメガホンで頭を叩かれるは、怒鳴られるは、平地発進よりも数倍の頻度で、エンストするはで、大変でした。坂道発進を習熟してくると、チョットした坂道発進のコツがあるのですが、クラッチペダルを上げてくると、足の裏に微妙な振動の変化とエンジン回転数が下がってくるのを感じながら、それに合わせてアクセルレバーを吹かしてやればいいのですが・・・。以前は、坂道発進は、得意だったけど、ここ何十年来、ＡＴ車にしか乗ったことがないから、今は、エンストばかりするでしょう。

一方、クルマに乗るには、ガソリンが要ります。部活動費の

燃料費なんて、微々たるもので、直ぐに底をつきます。そこで、部員がお金を出し合って、ガソリンを購入するために、一斗缶（未だ、ポリタンク等無かった時代）を下げて、校門の坂を下り、当時、大和橋脇に在った飯豊石油に買い出しに行ったものです。それも、２Ｌとか３Ｌの量り売りで。私の通学した昭和20年代末には、菓子パンが１個10～15円で、ガソリンは１Ｌ30～35円位だったのではないかな？親から貰って来た昼食代の一部を削って、それを、寄せ集めてガソリン代に変えたものです。古き佳き時代でした。そして、また楽しき高校生活でした。

☆卓球部ＯＢ会

常務理事　長内　進（昭和50年卒）

ＯＢ会の活動目的は会員相互の親睦と現役への支援でありますが、今回は現役への支援の活動状況についてご紹介させていただきます。

長らく現役を指導してこられた千々岩さん（昭和33年卒、平成29年逝去）がご存命のときは千々岩さんの裁量により現役に必要な支援を適宜実施していました。例えば練習ボールの購入や夏合宿の費用援助などです。

千々岩さんが逝去された後の平成30年以降は本間会長（昭和38年卒）の下で組織的な活動へと移行し、現役には毎年５万円の援助金の支給と必要な物品の寄付を適宜実施してきました。

これまでの主な物品の寄付は以下のとおりです。

・卓球台２台（サンエイ製）：平成30年９月10日
・ボール拾い用ネット20本：令和元年12月14日
・ネット＆サポート８セット：令和４年11月26日

また、現役練習にＯＢがコロナに注意して定期的に参加し、技術指導も実施しています。

今後も現役の皆さんがより良い環境で卓球に取り組めるようにＯＢ会としても支援を継続していきたいと思います。そのためにはＯＢ会員の皆さまに寄付金（一口２，０００円、複数口歓迎）のご寄贈をお願いできればと思いますので、何卒よろしくお願い致します。ＯＢ会の振込口座は以下のとおりです。

千葉銀行　幕張支店
普通預金　２０３１６５９
県立千葉高校卓球ＯＢ会会長
本間充武

☆サッカー部ＯＢ会

松崎　康弘（昭和47年卒）

「遠き歴史は力なり」。

千葉高校サッカー部が創立されたのは、１９４６年。かつては千葉県を代表することが何度もあったが、最近は全国でも結果を残すチームが増え、なかなか好成績を残せてはいない。しかし、現役サッカー部、千葉県社会人でプレーするＯＢチーム

の〝葛城クラブ〟、そして、千葉県シニアリーグでプレーする〝葛城シニア〟と、「生活の中にサッカーを」の理念の下、プレーすること、チームを支えること、また、仲間の素敵なプレーを見ることなど、千葉高サッカー部はシームレスに様々な形でサッカーを〝思いっ切り〟楽しんでいる。

１月２日の「初蹴り」。第１回がいつだったのか正式な記録は残っていないが、コロナで抜けた年もあったものの、少なくとも50年超続いてる。今年も、同じ学び舎でサッカーに関わった90人弱が歴代の顧問の先生も一緒に千葉高校のグランドに集まりサッカーを楽しんだ。

プレースタイルは、それぞれだ。高校卒業したばかりの選手のスピードに目を見張り、70歳弱の選手とＯＢお子さんの小４の選手とのマッチアップも面白い。一方、チームの組み合わせの苦労もなかなかのもの。

〝初蹴り〟には懇親会（新年会）がくっついている。

アルコールも入り、昨年日本代表がサッカーW杯で活躍したこともあって、これまで以上にサッカーを楽しんだ。そして、いつものとおり、絆を感じて校歌を歌ってのお開き。しかし、これは始まりであって、これから２０２３年シーズンが始まる。様々にサッカーを楽しみ、交流していくのだと思う。

☆バレーボール部 OB・OG会

会長　大熊廣明（昭和42年卒）

昨年はなかなかコロナの終息を見込めず、残念ながら現役支援、会員の親睦共に十分な活動ができませんでした。高校生の大会は中止されることなく開催されるようになりましたが、観戦についてはまだ制約があり、大会会場で直接応援することはできないのが現状です。コロナに感染は続いており、まだ油断はできないのですが、現役部員と交流できる日が早く来ることを願っています。また、会員の親睦についても、役員がやっと一二月に忘年会を開いたのにとどまり、会員全体を対象としたイベントを企画することは叶いませんでした。

このようにコロナ禍で会の活動環境は良くなかったのですが、成果もありました。昨年12月、会のホームページに「県立千葉高等学校バレーボール部の歩み」が加わりました。回想記、写真、試合結果などを整理統合したもので、A４版１０５頁に相当するボリュームです。関根新さん（昭和45年卒）の力作です。今後も随時更新し、充実さていくことになっています。ぜひご覧ください。

（https://www.kenchiba-volley-obog.net/）

ところで今年は、秋に総会を開催する予定です。その頃までにはコロナも落ち着いて、多くの会員が参加し、親睦を深められるようになっていることを祈るばかりです。

昨年は私たちにとってとても残念なことがありました。千葉高バレー部の初代監督早川俊一先生が亡くなられました。享年97歳でした。先生は監督として千葉高を県大会優勝、国民体育大会出場に導くなど、好成績を残されました。まさに千葉高バレーボール部の基礎を築いてくださった先生でした。この紙面をお借りしてご冥福をお祈りいたします。

☆葛城水泳会

会長　宮下賢一（平成2年卒）

2代目プールの環境整備

6年前に当時顧問の福原先生のご尽力により葛城水泳会が復活したものの、コロナ禍によりここ数年は「プール集合！」の合言葉が使えない状態が続きました。

現在のプールは2代目ですが、築造から早40年近くが経過しています。私の入学当時は真新しく、水球の公式戦にも使用され、他校からうらやましがられていました。巻き足（立ち泳ぎ）しながら東京湾に浮かぶ大型船を望むという、リゾートホテルのような眺望を楽しみながらボールを追いかけていました。

それから幾星霜。以前は草地だった海側に竹が大きく育ち密集して視界をふさぎ、蔦がフェンスを覆います。近年体育の授業で水泳は行われていないとのことで、部として自主的な管理が必要のようです。

そこで、卒業生有志でプール周囲の竹藪の伐採や下草の除草などの環境整備を行いました。猛暑による体力の消耗、立ち入りすら困難な竹藪、果てはアブの襲来などもあり悪戦苦闘でしたが、コロナ禍でもできる恩返しとなりました。

そして9月第1土曜日、コロナ禍も小康状態であったことから人数制限付きで学校の許可を得て、3年ぶりに10名弱が母校プールに集いました。コロナ禍以来数年ぶりにプールにゴールを設置し、現役生もパスやシュートなど水球を体験しました。

コロナ禍は未だ終わりが見えませんが、今年度もさらなる環境整備、そして9月第1土曜日は「プール集合！」の予定です。Facebook「葛城水泳会」もありますので、同窓生の参加をお待ちしています。

☆ラグビー部OB会

会長　長英連（昭和52年卒）

一昨年来、3年間に及ぶ新型コロナウイルス感染は様々な面で、現役ラグビー部の活動に大きき制約を与えてきています。内田組引退後、高橋組は冬の新人戦を他校との合同チームでの参加になりましたが、予選を突破し、トーナメント戦に進出しました。続く春の関東大会千葉県大会では、校内の助っ人の協力を得て県千葉単独チームで参加。勝ち進み、トーナメント戦準々決勝では、八千代松陰高校との激闘を、36－34の2点差で勝利し、久々にベスト4となりました。しかしながら、新入生

の勧誘活動は苦戦し、部員不足は続くことになっています。ＯＢ会としては、若手ＯＢが練習に参加することで支援を実施してきました。

秋の全国大会千葉県大会では、春のシード権で予選を経ずにトーナメント1回戦から登場。佐倉高校に勝利しました。続く準々決勝では、幕張総合高校に力及ばず、敗戦となりましたが、最後まで食い下がり、最後に1トライを得て3年間の意地を見せてくれました。

高橋組引退後の新チーム磯金組は、当面、合同チームでの参加になりますが、苦境の中でラグビーをやる意味を深く考えることになると思います。次なる飛躍に向け、ＯＢ会としても、若手の練習参加や物心両面の支援を継続しています。

☆野球部ＯＢ会

事務局長　濤岡　賢（平成元年卒）

「野球主眼で考えると、千葉高よりも船高に進学させたい。」

つい先日、受験生を抱える知人から聞いた衝撃の言葉である。

確かに、昨秋の県大会でベスト16まで進出し、「(甲子園)選抜高校野球大会21世紀枠千葉県候補校」に推薦（残念ながら出場叶わず）された、県立船橋高校野球部の活躍は称賛に値する。しかしながら、我らが千葉高野球部も、同大会でベスト32まで勝ち進んだ。今後の練習次第では、さらなる高みに到達し、県内の野球少年たちにとって「魅力」溢れる憧れの存在となる事も夢物語ではないはず…。

では、その実現のために、野球部ＯＢ会（葛城倶楽部）としてどんな貢献ができるだろうか。　従来からの取組み（練習サポートやハード面の充実化支援等）のほかにも、野球部の「魅力」を高めるための方法が何かあるはずだ。この点、監督や選手、必要により保護者の皆さんとも意見を交わしながら具体化させることが、当面の課題である。

なお、その足掛かりになればと、この度、東大野球部との合同練習会（@東大球場）を企画した。参加者からどんな声があがるか、楽しみなばかりである。

【(参考)昨年の主な活動】

◇1月：総会（コロナの流行状況に鑑み非参集）
◇3月：理事会、葛城倶楽部入会式（同右）
◇5月：監督・部長とのチーム強化方針等に係る打合せ
◇6月：理事会
◇7月：千葉県ＯＢ野球大会（千葉商大付属に敗戦）
◇10月：理事会
◇11月：理事会

☆山岳部ＯＢ会

会長　中谷和博（昭和44年卒）

この2年間余り嬉しい事、悲しい事がありました。

嬉しい事は、千葉高山岳部が千葉県高等学校山岳競技の部に於いて優勝し千葉県の代表として福井県で行われた全国高校総体に参加（２０２１年）したことです。昭和28年に副島智雄先輩（昭和29年卒）他が参加して以来実に68年ぶりの出場でした。他県の高校生と親睦を深めると共に貴重な体験を積んだと聞き及んでおります。

悲しい出来事もありました。久山敬前会長（Ｓ26年卒）・田辺健次郎氏（Ｓ29年卒）・石川栄さん（Ｓ46年卒）・浅野（旧姓安岡）珠希（Ｈ17年卒）さんがご逝去なされたことです。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、山岳部ＯＢ会活動の中心となる、ＯＢ会総会・ＯＢ会山行・ＯＢ会会報の発行はコロナが蔓延している現状では厳しいものがあります。ＯＢ会会報の発行は私の個人的な理由により遅れています。

会員の近況報告を拝見しますと、山に行きたくても躊躇している様子が覗えます。コロナの影響でしょうか、最近では低山での高齢者の事故が散見できます。十分な準備の下、余裕ある行動で登山を楽しんでもらいたいと思います。

会報送付希望の方へ

同窓会報が卒業生と母校の共通話題となるようお送りします。
ご希望の方は、同窓会に氏名･卒業年･ご住所をご連絡ください。

お申込はホームページからお願いします!!

●個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。
ゆうちょ銀行　00140-6-336678
加入者名　千葉県立千葉高等学校同窓会

事務局　〒260-0853 千葉市中央区葛城 1-5-2　千葉高校内
☎043-239-5550　FAX.043-239-5551

学年短信

●昭和22年卒

斎藤喜久三

94才同期会

我々の同期会も第53回目がお預けになっており、今年こそはと思っているが、只今は入学当時のことを級友と話をしている。

昭和17年、開戦の翌月に願書を持って千葉市内に到着して驚いた。吾妻町通りは戦勝ムードで賑っていた。県庁前に来た時のあのルネッサンス様式の建築の偉容に驚き、又千葉中の門から見た校舎に県下一番にふさわしくあまりにも威風堂々たる正面玄関塔に入学出来るかの恐怖すら感じた。運良く入学出来て校内の廊下、柱、ガラスその他すべてピカピカで素晴らしい。昭和6年

の改築なので我々の生まれより二年後の事で築11年の頃であった。一年生は一番南側の試験の時の待機所だった。これは昔の寄宿舎を手入れしたそうだ。朝礼場の広場の素晴らしさは塔舎と均整がとれて素晴らしい。歴代の卒業寫眞はここで撮影することになって居て昭和36年以降はこの校舎が現在の鉄筋コンクリート作りになったので図書館前の場所になっている。現在生に見せたかった。改築の二階は四年五年用であと三年我慢である。

そんな事よりこれからどんな事態が起るかを誰もが予想出来たであろうか。

一年より学校農場作業、校舎内の清掃、五年生の点検が恐しい。ビクビクの連續、二年になったら校外の作業が多くなる。県営グランドの芋畑の作業、育ち盛りの我々は腹がへって参ったね。そんな事で木更津港のハシケからの硫安の荷揚げは三時に白米の握飯が出るので大人気の作業だ。西千葉の材木撤去作業は体力的に二年生には無理な作業だった。三年になると四街道の下志津陸軍飛行場の拡張工事は本来ならば夏休みなのに戦局が思わしくなく、急遽作業命令があり、木製の手押車に土砂を積んでの埋立で、人海戦術でこの土方作業は参った。それは往路は千葉駅に集合し、四街道迄行軍で歸路は汽車で千葉駅で解散した。丁度青色の服装の四年生が機関庫で石炭の積込みをやっている作業を見て、上級生は辛い作業をしてくれているんだと感謝した。八月末には日本建鉄工場に零戦、雷電の部品製作に従事し、四年の夏に千葉中の雨天体操場に作業道具を持込み學校工場になってしまったが、とき既に遅く七月七日には千葉市も空襲を受けて都川迄焼野原になった。幸い級友は無事だった。毎日焼跡の整理に追われて學校に復歸してもあのピカピカ校舎は東部軍管区司令部の捷部隊が駐屯していた為、軍靴で踏みにじられ入学当時のあのピカピカは何處に、哀れであった。皆で毎日毎日掃除だった。世の中は食糧事情は逼迫し待望の二階の五年生の教室は空虚に等しかった。

我々中学校の五年間は一体何だったのか、この時代は我が自身で乗り切らなくてはならない。苦労を共にした級友との絆を大切な後盾として同期会が可能になれば必然的に毎年開催しよう。この意気込みで千中の校風和衷協同を胸にて現在迄毎年一回で53回目94才。今の母校は健在であり嬉しい限りである。

会報51号で昭和41年卒「葛城41の会」が昨年で45回目の同期会に天晴れのエールを送る94才迄53回同期会を追い越して後輩諸兄姉の先達となって下さい。

参考迄に我々の米寿記念52回の記念同期会寫眞集を贈りましょう。

昭和21年、五年生徒会運営の千中運動会の喝采を浴びた仮装行列は戦後の制限の無い自主運営の表れでしょう。（注）仮装行列は女性形が多かったです。

最終迄頑張った十人の侍たち100才迄頑張るぞ！。

●昭和25年卒

矢島　肇

同期は全員戦争を知っている。唯母校の空襲を知っている人はいない。七月七日夜、千葉高の上空を数え切れない焼夷爆弾が降ったのは誰も知らない。私は空襲時千葉高の校庭にそして蛸壺の中に身を潜めていた。周辺は直撃されたが校庭には落ちず夜が明けた。七夕の夜はとんでもない米軍からの贈り物だった。何故私が蛸壺にいたかだが、それは実家が近く退避場になっていたからだ。そして蛸壺は学生だった我々が体育の時間にみんなで掘ったものだ。少なくとも一米二十糎以上掘らねばならなかったが千葉高の校庭は粘土質で兎に角掘り難かった。退避しながらもっと深く掘っておけばと後悔していた。

その年の八月十五日戦争は終わった。苦労して掘った校庭を今度は埋め戻し平らに整理する事になったが粘りの土は変わっていない。土が粘って動かない。

そして校庭はグランドになった。体育の時間の他に部活で使われた。主に野球部の球場だったが土質は選手を苦しめた。雨が降れば泥々水がひかない。晴れれば地割れ、そんな中での練習は厳しいというより恐かった。ボールはイレギュラー、何処へ撥ねるか判らない。ボールが来れば先づ身を守る避ける。

母校先輩が時々来られたが危いから手を出さない様再々注意してくれた。「月に向かって打て」有名な飯島滋弥氏その人だった。

悪条件での練習はその後他球場のおかげもあって甲子園へあ

と一歩、翌年戦後初の甲子園出場となった。母校グランドの物語である。

●千葉高二七会

会長　中村作二

丸三年続いた新型コロナウイルスも、ようやく行動制限がなくなり、人の行き来ができるようになりました。

この間、同期生はどう過ごしていたか気になっています。

そこでこの際、みんなの消息を集めてみようと思いつきました。

平成三〇年に「二七会卒業の会」を開きました時には、まだ二〇〇名に通知を出したのですが、八十八歳から九十歳になっていますので、残念ながら鬼籍に入られた者も少なからずいると思われます。

次号でその結果を報告するつもりです。

●昭和29年卒　福の会

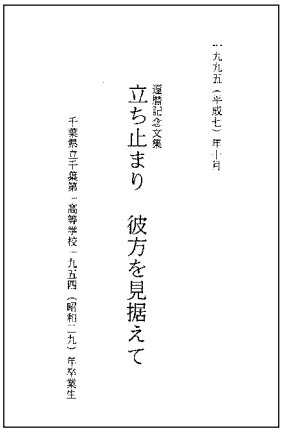
中村浩紹

米寿を間近に迎える齢となりました。

昭和26年4月千葉第一高等学校に入学し、たった3年間の学舎での交友が、68年間も続き、互いに励ましあい、喜び、悲しみを分け合ってきた。だが、仲間と酒を酌み交わしながら、ケーキを頬張りながら過ぎゆきし想い出や近況を語り合う機会を設けることも出来ぬまま、また、1年が過ぎ、多くの友が旅立って行った。

終活の準備をするなか、書架の片隅から28年前還暦を迎えて編纂した「福の会還暦記念文集」「立ち止まり　彼方を見据えて」が見つかった。

巻頭言「はじめに」を引用しご紹介したい。


一九九五（平成七）年一月
還暦記念文集
立ち止まり　彼方を見据えて
千葉県立千葉第一高等学校（一九五四（昭和二九）年卒業生

昭和29年3月千葉第一高等学校を巣立った若者達は、41年後の今日、孫達に囲まれる世代となってしまいました。

「還暦」なんて、まだまだと考えていたものの、遂にその年を迎えてしまいましたが、気持ちの中では、実感がありません。

でも、戦後50年にあたる節目の年に還暦を迎えるということは、私たちが経験した激動の時代の歴史の証人として、過ぎし60年の人生を改めて回顧するために意義あることではないでしょうか。

戦火を逃れて疎開した小学生時代、食糧難に耐えながらも泥まみれになって闊歩した中学生時代、朝鮮戦争特需景気に経済再建の追い風を背に将来への希望を夢見て青春しつつ競争し、血気盛んだった高校時代、夫々が想い出多き時代でした。

想い出は、真っ白い綿菓子のように包まれ、淡い香りが過去を美化してくれるのも時の流れのなせる悪戯かもしれません。

私達は、今、共生の時代へ軟着陸しつつあるのです。（中略）

酒を前にして、まずは歌うべし。

人生幾許ぞ、譬えれば朝霧のごとし。

過ぎ去りし日々の、はなはだ多し。

願わくば、来たりくる日々、美しき花に囲まれて、幸せの日多からんことを。

馥郁たる香りに包まれて、喜びの日多からんことを。

今はもう60なり、より豊に、より美しく、より楽しい人生を。

人は、信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望のある限り若く、失望と共に朽ちる。

本年こそ、卒寿そして白寿に向けて元気で肩を叩きながら語り尽くす時間を持ちたい。

●昭和30年卒（三十年会）

会長　大塚正明

新型コロナのため、2年間開催できなかった三十年会総会・懇親会を3年ぶりに開催、久々の対面の喜びと懐しさがひとしおの時を過ごした。

例年6月開催を令和4年11月5日に延ばし、京成ホテル・ミラマーレに32人が参加し開いた。

総会では、その年の夏に98歳で亡くなられた早川俊一先生に、追悼と感謝の黙とうを捧げた。

あえて感謝と申し上げたのは、先生は私たちよりひと回り年齢が上で、毎年総会にお元気な姿でお見えになり、いつも私たちを励まして下さったから。

会長挨拶で私は、個人的な意見と断わった上で、「この会を90歳まで続けませんか」と呼びかけた。その根拠は、早川英明事務局長が西千葉で営んでいるスナックを「90歳までやりたい」とかねてより話していたからだが、その後幹事の皆さんの顔色を見ると、何となくわかってくれたような気がする。

また、2年間会費収入ゼロの中で、文書担当の宮原暁幹事の

努力によって独自の30年会報、伝言板など開催中止のお知らせとともに２００人に送ってきたため、手持ちの会費残高が底をつきそうになっていた。進行役の早川君がありのままに報告したところ、１人１０００円のカンパに快よく全員応じてくれ、令和５年以降の参加費値上げも了承された。

懇親会では近況報告の中で、中央大学名誉教授の高橋治男君が、総会直前に出版した大作「ジャック・プレヴェールのシャンソン」が話題となった。おそらく日本有数のシャンソン専門家が仲間にいることを大いに誇りに思った。

かくて総会・懇親会は。令和５年の再会を願って幕を閉じた。

●昭和35年卒（珊瑚会）

中島 啓三

35年卒の珊瑚会の中に「探美会」「探酒会」という集まりがあります。「探美会」の趣旨は名前の通り「美を探求する会」という高尚な会のはずでしたがいつのまにか美を探求するよりも「自然を探求するし楽しむ会」「名所・旧跡を歩く会」となりました。プラス「反省会」と称して「何らかの情報交換会」になっていました。「探酒会」は純粋にグルメ食事とともに美味しいお酒をたしなむ会として誕生しました。この二つ会が合同で集まることもありました。

コロナ禍でこの活動も3年間中止を余儀なくされ会員の年齢も80歳を越え集まる機会が減ってきました。また残念なことに少しずつ訃報を聞く状況になってきました。

昨年11月9日に久しぶりに浜松町の旧芝離宮恩賜庭園に12人が集まりました。隣の浜離宮庭園にくらべこじんまりとして有名でありませんが、池・泉・小山を中心とした回遊式庭園をゆっくり散策しました。庭園は北・西に浜松町の高層ビル街、南・東に竹芝、汐留のビル街に囲まれ雅に都会のオアシス状況です。又かつての有名な貿易センタービルも立て替えのため解体中の状況が見られました。

その後、新橋へ移動し久しぶりに銀座通りを歩いて途中、東京の最古の泰明小学校のクラシックな校舎を見て昼の食事会場へ移動しました。

以前の活動は午前10時に集まり歩いて昼に各自の弁当に味噌汁・コーヒー入れながら食事をして、午后さらに歩いて夕方反省会と称して一杯行くパターンでしたが、今回から午前は散策し午后は昼食会だけとなり歩く距離、時間の大幅に短縮するよう変更となりました。

昼の食事会場としてたまたま貸し切りの個室が確保できコロナ感染も気にすることもなくゆっくり昼食ができ、近況報告では、話の中心が健康、病気、治療体験、ボケ防止等の話となりましたが、要は80歳の壁にどう立ち向かうかが話題です。

参加者12名の内、女性が3名で女性の出席率は高い。平均年齢から見ると女性の方が元気で当然かもしれませんが、さらなる千葉高男性陣の出席率向上を期待したいところです。

この会も20年、１７０回を越えましたが、元気な内、歩ける内は、米寿（88歳）を目指して頑張ろうと意気込んでいる状況です。

●昭和36年卒

山田 洋子（旧姓 今村）

八十才を迎えたある日、そろそろ終活を始めなければと、棚の上を整理していた時、孫娘が「これなあに」と箱に入っていた盾を取り出した。「ああマラソン大会優勝の盾」と私が答えると、「へえスゴイ」球技は得意でも走ることは全く駄目な孫娘は、いたく感動して私を見た。「女生徒はクラス平均五人だったから一、二年生合わせても九十人くらいだった」「そんなに少なかったの」

二年生の個人面談の時、担任の仲田先生から「お父さんは短大に進学して結婚し、早く孫の顔を見せて欲しい。と言っておられるよ」と告げられた。その後夕日の中、袷の着物を着て縁側で爪を切る父の背中に向って「四年制の大学に行かせてください」と手をついてお願いした自分の姿を思い起すことができます。

大学に入ってからも国立大学に通う女子大生に向けて、女子大生亡国論という言葉がマスコミ上でも取りあげられることもありました。

会報を拝見すると、成人記念会の写真に何と多くの女性が参加されておられることでしょう。頼もしい限りです。

全てにおいて低迷する日本、女性の力を今程必要としている時はないと思います。政府の音頭とりで少子化対策が叫ばれていますが、依然として残る労働環境における男女差が改善されない限り、またパートナーの意識が変革されない限り、女性が命を産み育てるという大事な仕事に踏み切れません。

諸外国では女性の首相も多く活躍しています。有為な我が母校の女性が多方面でその持てる力を発揮されることを祈念したいと思います。

●昭和39年卒（39葛城会）

畠山一雄

２０２２年はコロナ感染の縮小拡大が繰り返される中、39年卒はコロナ対策をしながら同期の仲間との交流を絶やしませんでした。３月29日には18名の参加者で桜の名所小林牧場周辺のハイキングを行いました。３月26日には有志による定例の第７回稀楽の会コンサートが船橋市勤労市民センターホールにて開催され、多くの同期の仲間が聴きに集まりました。

稀楽の会は還暦となった歳にSix Times Tenコンサートとしてスタートし、年１回10年間継続し、その後稀楽の会への名称と若干のメンバー変更を行い、今日に至っています。５月16日には定例の39葛城ゴルフコンペが本千葉カントリークラブにて開催され、16名が参加しました。10月23日には喜寿を祝う会がオークラ千葉ホテルで開催され、66名が参加し、お互いの健康を祝し、交流を温めました。席上、春の叙勲を受けた林孝二郎さんを祝福しました。宴会の締めは千葉高のますますの発展と卒業生の活躍を祈念し、元応援団の指揮のもとで千葉高校歌を全員で斉唱し、母校にエールを送りました。

11月７日は定例の39葛城秋のゴルフコンペが開催され、14名が参加しました。11月29日は香取神宮紅葉散歩と佐原「街の舟めぐり」で19名が参加し、割烹のミニコンパにて懇親を深めました。

このほかにも小グループでゴルフ、ハイキング、登山等を実施しました。このように39年卒は各種の行事を通じて交流を続け、千葉高生としての誇りをもち、母校の発展を願っています

2022/11/7 39葛城ゴルフ 本千葉カントリークラブ

2022/3/29 桜ハイク 小林牧場

2022/10/23 喜寿の会
オークラ千葉ホテル

●昭和39年（定）卒

三井芳夫

夢のはじまり

三井ヨー　うれしくてねむれねーよー
七月六日　ヤマちゃんから電話
どうした　都合悪くなったか
そうじゃねえよ　うれしくてねむれねえよ
大広間で宴会　輪になって校歌
奥井さん涙　小学校　中学校
修学旅行がなかった世代
ありがとう
卒業後35年　いくつかのラッキー
ひとつめ　てつだってくれた35年卒の田辺さん実家のホテル
いとこ　手配旅行
保証金　30％チャラ
千葉駅前集合　バスドア　シュー
と開く
ハイデッカー　出入口が２ヶ所
だんたい旅行には便利
中から三井さんどうしたの
ドライバーの声
なんとドライバーは堀さん
毎週都町武井寿司であう
今日は仙台に行きます　この車だよ
この先どうする
まだ企画があります
修善寺からこの先バスで20分の丘
トイレの神様　明徳寺
これ紅白で大ヒット
私達の世代にはひじょうに大事です
下の世話にならないらしい
最後の企画があります

●昭和41年卒

藤しず江

後期高齢者で～す❤

卒業後56年余、全員が後期（高貴？）高齢者になります。

私個人の在学中の思い出と言えば、バスケ部と運動会と文化祭と修学旅行だけ。クラスメイトの名前すら男子は覚えないまま卒業しました。

それが還暦の年、同窓会幹事学年として同期生一丸となって役割を担い、かつ同期会のサイトの交流を通して、がぜん知り合いが増えました。

現在は大半の人が現役を退いたので、正月の七福神めぐり、桜や紅葉の季節の京都旅行、県内・近県の小旅行等、楽しみが増えています。

さらに千葉高ＯＢならではの有難さは、何か相談事ができた時、同期生の中にプロがいること、又は専門家を紹介してくれる人がいることです。

遊びだけでなく、「困った時の葛城41会」でもあるのです。お陰で退職後、楽しく充実した日々が送れ、感謝しています。

今年の同期会は、11月26日、千葉みなとのホテル「ポートプ

ラザちば」で行われ、57人の出席がありました。

世話人の一人、宮田さんが叫びました。「言いたいことはただ一つ。ここにいるみんな、来年も、全員集まろう！」

本当に、この一言に尽きます。

●昭和44年卒

森　茂

『どうする人生百年時代』

古稀記念（第七回）同期会がコロナ禍のため三回流れました。少々自棄になって「百寿への道」を展望してみます。

百寿者へのアンケートでは長寿の秘訣として、①バランスの良い食事②適度な運動③心の満足感④周囲とのコミュニケーション、が挙げられています。考えてみれば、これらの秘訣は私たち「青二才」の健康にとっても大切なことばかりで、こうした生活習慣を積み重ねた上で、もう一つ⑤運良く生き延びる（事故や天変地異に遭遇しない）ということが重要な要素になるのかも知れません。

ところで、「人生百年時代」とはいうものの百歳になった時には同期会は開かれません。あと何回開催できるか？というよりも「最終回をいつ頃にしようか」という同期会の終活時期に入りつつあるのです。それは「同期会に参加しようか」と思っても身体が動かない、という健康寿命の満了時期（これを伸ばす努力は無駄ではありません）が残念ながら間もなく到来するに違いないからです。

これまで同期会の推進役であった学年理事の櫛部君が令和四年五月に逝去されました（ご冥福をお祈りいたします）。

※延び延びとなった第七回同期会を令和五年十月二十二日（日）に開催の予定です。コロナ禍が鎮静化し、皆さんと元気でお会いできることを祈っています。

●昭和47年卒

神谷 ちづ子

ご多分に漏れず、我が学年もこの三年、同期会を開催出来ずにいます。何しろ、令和五年には大半が古稀を迎える期。古来稀なりの堂々たる年寄り枠です。京都・奈良への修学旅行中、三島由紀夫の自刃事件が飛び込んできた歴史的体験までしております。そんな年齢ですから、同期会なんぞ開催した日には、世間からどれだけ厳しい目を向けられることか。

幹事は一年も前から準備を進めていたのです。あちこち視察し検討を重ね、最適会場を予約しあとはお知らせするだけのところでコロナ禍となって延期に継ぐ延期。いずこも同じなのでありましょうが、なんとも腹立たしい。

尤も、同期を見渡せば極めて老人意識は希薄です。「爺ぃだ」「バーサンだ」と自嘲しつつも、内心、全くその気はない。メイリングリストで連絡・報告は密ですし、ゴルフ、サッカー（観戦のみ）、マラソン等スポーツも盛ん。飲み会や旅行も静かに実行しているし、本を出したり講演をしたりと、それぞれに多忙です。未だ現役で仕事をしている仲間も少なくない。つまりちっとも籠もっていない。

それでも大勢で集まる会だけは、躊躇せざるを得なかった。

しかし、今年こそ同期会決行に向け動きませんと。うかうかしていると、体が動かなくなる恐れもあるし、古稀を祝う大事なタイミングです。（メデタクもないが）

コロナ禍が収束し大手を振って集まれる世の中になりますように。これは日本人全ての願いでもありますよね。

●昭和49年卒（49年会）

羽田 徳治

毎年1月2日には、同級生で新年会を開いている。かれこれ50年になる。場所は萬菊園（千葉城の麓。同級生がそこの倅）ほんの数名で始まった新年会だが、噂を聞いて年々集まる人数が増えていった。そして、結婚したら奥さんを連れてくる。また、子供が低学年になったら連れてくることとし、多い年には70名以上になった。子供には硬貨のつかみ取りや丁半勝負。大人はそばやおでんの早食い競争。プロレスに、人間競馬（サイコロで、畳を進んで行く）萬菊さんには大変お世話になった。皆、「出世したら必ずお店を利用します」とか言っていたが、出世しなかったせいか利用

したのを聞いたことがない。

その萬菊さんが店じまいしたので、その後はしかたなく羽田ホテルにて継続しているが、人数は20名程度。仕事や子育てを終了し、話は体の不調で賑わう。いつまでできるのだろうか。

さて話は高校３年生の文化祭。実行委員で遅くまで打ち合わせ。夜食に花月庵から出前の冷やしたぬきをとる。こんなうまいものがあったのかと驚く。

文化祭では初めて女装コンテストやら、のど自慢大会を開催した。当時の先生がよく認めてくれたものだ。雑誌のプレーボーイが取材に来るとの噂。緊張して待っていたが、来なかった。

その後何年かはこの行事が続いたと聞く。

昔の良き思い出である。

●昭和50年卒

園部　創

２０２２年11月12日（土）、京成ホテルミラマーレにて学年同窓会を開催。６階ローズルームで一次会、２階レストラン「ディスカーロ」で二次会を実施。流石にホテル側の感染対策は完璧で、10人円卓を６人で着席し、隣席との間はアクリル板で仕切り、料理は個別にサーブする方式だった。我々もマスク会食を徹底したが、久々の対面ということもあり、演台の前に大きなアクリル板を立て、マスクを外してスピーチしてもらった。同窓会は盛況裏に終了し、次回は古希を迎える４年後の秋の開催とした。

実はこの同窓会を楽しみにして、開催に向け一緒に準備をしてきた幹事の佐久間芳智が急逝し、参加できなかった。膵臓癌で発覚してから３カ月で逝ってしまった。佐久間は高校時代からずっと輪の中心にいるムードメーカーで、いつも会話が楽しい佐久間がいると周りが明るく和んだ。年金生活者になってからは、暇なオヤジ二人でよく出かけた。世の中の動きにも敏感で、ロシアや中国、北朝鮮問題などメールやＬＩＮＥでよく意見交換した。そんな仲のいい友人が突然いなくなってしまい、ただただ茫然とするしかなかった。

同窓会を開催してわかったのは、すでに同期が20名亡くなっていたということ。高齢者の仲間入りをして、残りの人生をどう生きるか、真剣に考えなければいけない年代になってしまった。やはり青春時代をともに熱く生きた千葉高同期は至宝に値する。その友人たちとともに年輪を重ね、また元気な姿で２０２６年に会いたい。

●昭和54年卒

御園生　博文

「東京オリンピックが終わったら、葛城会の幹事だね」を合言葉に、少しずつ同期の連絡体制を整え、２０２０年２月の葛城会にて、幹事の盾を引き継いだ。あれから三年近くが経とうとしているが、その間には様々なことがあり、幹事の役目は…。

感染症の拡大により、東京オリンピックも、そして葛城会も延期。翌年、55年卒の人たちと力を合わせ、安全で楽しい会にするための知恵を出し合い、なんとか準備を整えたものの、残念ながらまたも延期。その夏に行うこととなった「葛城会懇親会」も準備を進める途中でまたまた中止となってしまった。

しかし、残念なことばかりでもなかった。２０２２年８月には、「同期の集まれる人だけでも…」という話が進み、二十名程度の小規模ながら、久々に同期会が実現した。そこでは、葛城会のアトラクションを依頼していた同期中心のトリオによるアンサンブル演奏も披露され、充実した会となった。その後、無理なく集まれる人たちで行う同期会は、２０２３年１月にも行われた。また、開催困難な中、共に準備を進めた一学年下の皆さんや、同窓会事務局、膨大な同窓生のデータを管理している方々等、学年を超えた同窓生の皆さんとの出会いもあった。

千葉高同窓会は、多くの方々に支えられ、脈々とつながっている。皆の思いは同じ。一日も早く、安心して同窓生が集い、楽しく語り合える日が来てほしい。

●昭和57年卒

土屋　保之

２０２２年５月14日、第５回同期会をＺＯＯＭによるオンラインで同期33人が参加して開催しました。元々のスケジュールでは２０２１年11月に錦糸町のホテルで開催する予定でしたが、準備期間含め、まだまだ対面の宴会を実施出来る状況ではなく、夏までには開催を諦め、延期せざるを得ませんでした。

私達昭和57年卒は２０２４年２月の同窓会総会・懇親会を幹事年度として取り仕切ることになります。そのことを認識した13年前の２０１０年に初めて学年同期会を開催して以来、東京葛城会の幹事年度を含め、二、三年毎に同期会を開催して来ました。ホームページを開設し、同期会の開催情報や開催結果を掲載するとともに連絡先一覧のＰＷ変更メールを年２回送ることで、多くの同期生と接点を保ち続けてきました。

同期会開催の間隔が長くても短くても集まろうというモチベーションに障りがあると考えてスケジュールを考えていたので、出来れば２０２２年夏までには、もう一度同期会を開催したいと考えていましたが、多少状況はよくなったものの、やはり大勢で集まるということは躊躇せざるを得ず、かと言って何もしなければ本番までに３年以上の間隔が空いてしまうことになるというジレンマの中、代表世話人と事務局で対応を協議し

た結果、既に勤務先でオンライン授業やウェビナーの経験を積んでいる豊田代表世話人から、オンライン同期会をやろうという提案があり、まずはオンライン世話人会を開いて、世話人の皆さんに説明するとともに、直前にもオンライン世話人会を開いて予行演習をし、５月14日19時からオンライン同期会を開催しました。

歓談タイムはブレイクアウトルームを活用して、なるべく多くの人が会話出来る環境を作り、前後の時間合わせて約３時間強、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。コロナ禍の中、オンライン会議は世の中に定着した感がありますが、共通の話題や感覚を持つ同期生だからこそ、数十人が集まるオンライン宴会も可能だったんだなと、改めて思います。

自分達の幹事年度はどうなるかとやきもきして過ごしたこの３年間。５月に５類指定になれば、来年は普通に総会を開催出来るでしょう。本番まであと１年、「第６回昭和57年卒同期会on同窓会総会・懇親会」として、多くの同期生が集まり、総会が盛り上げられるよう準備していきたいと思います。

●平成元年卒

岡﨑　真

ＯＢオーケストラ

私は現在、昭和７年旧制千葉中卒の祖父・岡﨑正夫（故人）の跡を継いだ昭和33年千葉高卒の父・岡﨑鑛太郎と共に、千葉市中央区新宿にて歯科医師をしております。

高校時代は、ロクに勉強もせず、朝・昼・放課後とオーケストラ部に入り浸っておりました。その甲斐あってか、卒業後に「かつらぎフィルハーモニー管弦楽団」というＯＢオーケストラを設立し、25年間団長を務めさせていただきました。「かつらぎフィル」は、当時千葉高の音楽教諭で、オーケストラ部の顧問でもあった伊賀美哲先生を指揮者に迎え、その教え子たちである千葉高オーケストラ部の卒業生（のちに転任となった県立津田沼高校の卒業生も加入）で組織されたアマチュアオーケストラです。私は、25回目の演奏会でベートーベン第９交響曲を演奏したのを機に団長を降ろさせていただきましたが、その後も後輩たちによって演奏活動を続けております。もっとも、近年はコロナ禍の影響で、演奏会が中止されたり、無観客になったりと苦労を重ねておりました。しかし、２０２２年には３年ぶりに有観客での演奏会を開催することができました。アンコールでは、やはりコロナ禍で中止された２０２０年の千葉高定期演奏会で演奏するはずであった、ヴェルディ作曲の歌劇アイーダより「凱旋行進曲」（県立千葉高バージョン）を当時の現役部員を交えて演奏し、大いに盛り上がりました。

●平成18年卒

戸澤庸子（旧姓　長尾）

今年の同級生紹介は、防衛大学校講師の高橋奈津美さんです。

明治学院大学卒業後、首都大学東京で博士前期・後期課程修了。２０２０年IEEE Reliability Society Japan Joint Chapter学術奨励賞受賞。ネットワーク評価手法やシステム信頼性改善などが専門です。

―この分野を選んだ理由は？

学部生時代、オペレーションズリサーチ（ＯＲ）の授業で興味を持ち、大学院で経営工学専攻に移りました。

ＯＲは社会の様々なシステムや問題を数理的性質に基づき分析・工夫し効率化を図る手法です。例えば最短経路を探す問題であれば、列挙順序の工夫で検索時間を何割も減らせます。自分の工夫で高速化できるのはやっぱり面白い。

―今後の目標は？

難しい課題を解決する喜びはひとしおで、次に進む原動力になると思っています。そんな体験ができる授業にしたいです。また、自身の専門を楽しく語る先生に出会えたことで、大学教員や研究者に興味を持ったので、人を感化するくらい授業も研究も楽しみたいです。

―千葉高生にメッセージ

大学に入り専門が決まったら、就職候補が見えて将来が決まるように感じるかもしれませんが、選択肢は自分次第。色々な可能性が広がっています。今できることや興味あることに向き合い楽しみ、時に苦しんでください。寄り道をしてみるのもいいかもしれない。皆さんが自分の柱となるような何かに出会えることを願っています。

●令和３年卒

成人記念第１回同期会

第73期同窓会長　渡邉駿太

令和５年１月７日（土）、京成ホテルミラマーレにて令和３年卒業生の成人記念同窓会を開催いたしました。

はじめに73期生を代表して感謝を述べさせていただきます。私達の同窓会は千葉県立千葉高等学校同窓会からのご支援をいただいたことで開催することが出来ました。このような素晴らしい会を開いていただき誠にありがとうございます。特に開催の準備にあたりましては、阿佐事務局長、沢田名簿委員長をはじめ千葉高の先輩方から丁寧なご指導、及び協力をいただきました。また、会場準備や会の進行、写真撮影など何事においても私達を助けてくださった京成ホテルの方々にも感謝申し上げます。

今回の同窓会には同窓会役員の先輩方４名、恩師の先生方11名、そして同期２４０名の計２５５名にご参加いただきました。お忙しい中ご都合をつけていただいたこと大変嬉しかったです。厚く御礼申し上げますと共に、次回もご参加いただければ大変幸いです。

さて、思い返してみますと73期生は二年生と三年生の間の春休みからコロナウイルスの蔓延がはじまり、学校行事の中止やウイルス感染に対する厳戒下での受験など何事においても不都合の多い中で高校生活を終えることになりました。とはいえ、それが単なる困難であっただけでなく自主的な活動や協力を生んだ面もあり、他の代の卒業生に劣らぬ強度の関係を同級生と築くことが出来たと感じています。また、教師の方々をはじめ多くの人の助力を身に染みて感じた最終学年でもありました。だからこそ、卒業後にクラスメイトと集まったり先生方に感謝を伝えたりする機会としての成人記念同期会は何としてでも開催したいと思っていたところ、同窓会や京成ホテルの協力によって、今回の会の開催が叶いました。より多くの人に参加して欲しいと希望しつつも、二年間顔を合わせていない同級生ときちんと連絡をとれるかという点が不安だったのですが、各クラスの同窓会実行委員が転居した人の住所を把握し連絡してくれたので殆ど全ての人に無事招待はがきを届けることが出来ました。その他様々な仕事を受け負ってくれた実行委員の仲間には非常に感謝していますし、目標に向けて協力していく中で高校時代を思い出し大変懐かしくなりました。

私は大変気が小さく、開催が近付くにつれ同窓会を皆に楽しんでもらえるかどうか不安が増すのですが、当日の朝、司会を担当する友達と進行について連絡、受付や誘導を担当する有志の仲間と準備をしている時まで胃痛がしました。結局、心配を吹き飛ばしてくれたのは早めに来たクラスメイトの「同窓会楽しみにしてたよ」、「準備ありがとう！」、「早く座らせろ」という言葉で、この時、勝手ではありますが、どうあれ自分自身がこの会を楽しんでやろうという気になりました。今回は多くの恩師の方々に来ていただき都合が悪かった方からは祝辞も預かっていたので前半の時間がだいぶおしてしまったのですが、いつまでもマイクを離さず話し続ける姿を見て日々出来るだけ多くのことを伝えようと試行錯誤する教師としての矜持への尊敬の思いが一段と強靭になりました。来年度の司会の方には時間制限を設けることをおすすめします。後半は各クラスごとにステージでの写真撮影でした。私は進行の都合もあってステージ近くにいたため、各クラスが撮影されていくのを眺めていました。クラスの仲間が誰になるかは勿論そもそも同級生が誰になるかは、多少の選別が介入しつつも大部分偶然であるはずですが、それなのにある固有な関係が生成し卒業後まで残っていくのが面白く、かつてのクラス委員長による撮影後のスピーチを聞きながら役割と個人とが相互に作り上げあわれる過程に自分もいたことを思い起こしました。

閉会の言葉の中で次回の開催は十年後と述べたところ、一部の人から「そんなに待てない！」との声をいただきました。私も今回十分に話せなかった、あるいは、日程上参加出来なかった人達とも集まりたいと考えていましたし、何より今回の同期会の楽しみは直ぐにもう一度味わいたいほどのものでした。可能であれば数年後に開催したいと思っていますので住所の変更等ありましたらお伝えください。

同窓会の母校支援活動

社会人講演会への講師派遣

【高校への講師派遣】

高校では「総合的な探究の時間」で、活躍中の先輩から最新の事情や進路上の心構えなどを講演してもらう講師派遣を行っている。

６月の１年総合学習・外部講師講演会では、昭和55年卒から衛藤公洋氏に講演をお願いした。

また、10月には２年生を対象に「先輩に聞く」の講演会を行った。

【高校２年生対象講演会「先輩に聞く」の生徒感想】

①東　寿浩（平成12年卒）

（感想）編集のアイデアの出し方が斬新で驚きました。学生時代のお話しも詳しく聞くことができ、良かったです。自分はまだ将来何をしたいか明確に決まっているわけではないので、これからたくさんのことを経験し、自分がやりたいと思えるものに出会えたらいいなと思います。

②作田　豊（平成12年卒）

（感想）大変興味深いお話しありがとうございました。僕は、経営といった部門は理系ではなく文系のイメージがあったのですが、経営や人事を新たな改革を経て成功させるには、文系の考え方とともに、理系の考え方も重要であることがわかりました。また、自由な発想の中で周りを説得する大切さや大胆に動くことの大切さを改めて知ることができたのでとてもよかったです。

③佐々木 俊介（平成12年卒）

（感想）高校の勉強が多くの専門分野の基礎になっていることがよくわかりました。これまで、高校での勉強は、大学受験のための勉強だと思っていましたが、大学に入ってから自分がやりたい分野の基礎になっているということを知り、今よりも一層、高校での勉強を決しておろそかにしたりせず、集中して取り組みたいと思いました。自分はまだやりたいことが明確には決まっていないので、自分のやりたいことが見つけられるように、多分野にわたって勉強したり、本を読んだりしたいと思いました。

④鈴木 裕介（平成12年卒）

（感想）今回のお話しの中で「ほんとうに微力だが無力ではない」という言葉が一番記憶に残っています。確かに世界には70億人もの人がいて、その中のたった一人にできることは限られているけれど、その行動は必ず他の誰かには影響を与えていて、無力だということは絶対にないんだと思い、改めて、私は、１人でも２人でも多くの人に良い影響を与えられる人になりたいと思いました。様々な方法はあるけれど、やはり私は医師を目指し、誰かに生きる力を与えられたらなと考えます。「善い人が幸せに生きられる社会」は本当に理想で、すばらしい社会だと思います。少しでもそれに向かっていけるようにわずかな力でも頑張りたいです。今日は素晴らしいお話しをしてくださり、ありがとうございました。

⑤寶川 紘司（平成14年卒）

※講演会当日、遅くまで生徒の質問にお答えになっていたので、生徒が寶川さんに渡した感想文をお借りし、記録しておくことができませんでした。

⑥桑原 沙耶（平成17年卒）

（感想）医療、教育面の発展のために、直接医師として仕事をするのではなく、法学面から根本的な障害を取り除くというやり方があることに驚いた。自身の最終的な目標を掲げ続けつつ、１つ１つ現在の目標を設定し、それを達成することで最終目標に近づいていき、またその最終目標がぶれずにいて、私もそのスタンスを実行したいと思った。高校・大学生活共に最大限楽しみ、その期間でしかできないことを取りこぼさず、いつでも全力で生活していく姿を見習っていきたい。

⑦小野口玲菜（水谷）（平成18年卒）

（感想）「好きなことでも仕事になると話は変わってくる」と言う人もいるけれど、不可解を追究でき、専門の話を楽しそうにできるのはやはり素敵だと感じました。研究についての話を聞いていて、ちらほらと千葉高の授業で聞いた話とリンクするポイントがあって楽しかったです。自ら「高い」と言えるような給料がもらえるのは本当に一握りの研究者だとは思いますが、それでもこの仕事への憧れが尽きません。

⑧鹿渡 俊介（平成18年卒）

（感想）私は小さい頃から小説家になりたいという夢があって、そのために大学卒業後は出版社に勤めようと思っています。しかし、今までその道しか考えたことがなかったので、「もし、将来挫折したら、私は何をしたら良いのだろう。」と悩んでいたところでした。そして今日、パイロットに挫折し、大学院に入ったという鹿渡さんのお話を聞いて、そのような選択肢もあるのだ、と気づきました。今まで、大学を卒業したら何かの職業につこうとばかり考えてきましたが、大学院に進み、より視野を広げてから、その先の将来について決断するのも良いなと思いました。

2022年6月 衛藤氏講演会（１年生）

葛城人脈 8

佐瀬真人さん（平成7年卒）

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 代表執行役社長

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。

聞き手は東 寿浩（平成12年卒）

千葉大附属中から千葉高へ

―よろしくお願いいたします。まずは千葉高に入るまでのお話からお聞かせください。

佐瀬真人（以下、佐瀬） 実家が千葉高の近所だったので、千葉高は子どもの頃から馴染のある学校でした。小中学校は千葉大附属に通っていたので、実は一番近くの学校が高校でした。そのせいで、高校時代は友人たちの溜まり場と化していました。家で麻雀をやったりして（笑）。

―高校時代はどんなことに力を入れられていたのですか？

佐瀬 中学校まではサッカーをやっていたので高校でも入ったのですが、時間が欲しかったこともあって、1年生で退部しました。その後は親が読書家だった影響もあって、本をよく読んでいました。

―どんなジャンルの本ですか？

佐瀬 哲学書や思想書とかですね。柄谷行人や松岡正剛とか、乱読していました。何か一冊を何度も深く読む、というよりは手あたり次第読む感じでした。

―柄谷行人さん、最近では「哲学のノーベル賞」と言われる「バーグルエン哲学・文化賞」をアジア人として初めて受賞されたことが話題になりましたね。

佐瀬 千葉高って学生運動の歴史もあったりして、ある意味社会と向き合うような伝統や、背伸びをするカルチャーがあったような気がして、ちょっと大学生っぽいというか、大人びたところがありましたよね。小説だと村上春樹や中上健次の作品をよく読んでいました。『風の歌を聴け』が特に好きで、読んだ時は衝撃でした。あとは映画も好きで、『イージー・ライダー』とか。

―アメリカ文化系がお好きだった感じでしょうか？

佐瀬 なんでしょうね。当時は服もアメカジが流行っていましたし。高校でもよく着ていました。

―制服なのに！

佐瀬 制服があるはずなのに、なんだか、皆が同じ格好をしていることとかなかったですね（笑）。あとはよくビリヤードとかをやっていました。

―本当に大学生みたいですね。思い出に残っている先生はいらっしゃいますか？

佐瀬 やはり、何と言っても生物の加藤富士夫先生でしょうか。千葉高の先生ってここまで深く迫ってくるのかと衝撃を受けました。それと英語の大塚一郎先生、国語の斎藤啓一先生。斎藤先生はカマキリの拳法の使い手だったような…。

―蟷螂拳ですね。私もお世話になりました。

浪人生活を経て、慶應SFCへ

―大学受験はいかがでしたか？

佐瀬 どうもそこまでやる気が出なくて（笑）。一年間浪人して津田沼の代々木ゼミナールに通っていました。受験生なのでそんなに遊びまくるということもなかったのですが、何となく一緒に行動するグループみたいなのもできていましたね。

―最初からSFC（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス）志望だったのですか？

佐瀬 そうでもなく、実は受かったのがそこだけだったんです。数学と小論文で受験できたのですが、小論文は、色々本も読んでいたので得意だったのと、数学はまあ、勉強時間に対してコスパがよかったので、科目の相性がよかったですね。

―英語がなかったのですね。今はお仕事でかなり英語を使われているかと思うのですが。

佐瀬 そうですね。でもまあ、英語は入った時からサバイバル英語というか、必要に応じて勉強していけば何とかなりました（笑）。

―流石です（笑）。

佐瀬 ただ、SFCに惹かれた理由もあって、何か特定の専門を一つだけ深めるというのではなく、色々なテーマを幅広く勉強できるので、そこが面白そうだと思いました。リベラルアーツを学んでおきたい気持ちもありました。

―幅広く勉強するというところも、千葉高と近いものがありそうですね。

佐瀬 そうですね。当時のSFCには最先端の先生方が大勢いらっしゃって。文学系だと江藤淳先生、福田和也先生、そして新進気鋭の小熊英二先生。

―錚々たる先生方がいらしたのですね。当時はどんな大学生活を過ごされていたのですか？

佐瀬 まず、SFCのある湘南台は千葉から遠いので一人暮らしをしました。そうすると寮生活みたいな感じで、近くに住んでいる同級生とかとも仲良くなりましたね。『イージー・ライダー』の影響もあってバイクが好きだったので、大型バイクの購入資金を稼ぐために近くにあったトラックメーカーのいすゞ自動車の工場で期間工として2か月弱くらい働いたこともあります。なかなかヘビーでしたが、会社に入って自動車業界を担当することになったので、非常に貴重な原体験になったと思います。他にも当時急速に普及していた携帯電話を売るアルバイトとかもやったことがあります。神奈川県内の色々な場所で販売をしましたが、地域によって特性も違いましたし、人はどう押せば意思決定をするのかなど、色々勉強になりました。

―当時はどんな進路を目指されていたのですか？

佐瀬 もともとは広告代理店でクリエイティブ系の仕事をしたかったんです。それもあって、大学時代に力を入れて勉強していたのはメディアや映像制作についてでした。

―文学と近いような気もしますね。

佐瀬 そうですね。広い意味での表現に興味がありました。当時は東南アジアに貧乏旅行に行ったりしていましたが、一緒に行った筒井龍平くんはサイバーエージェントなどを経て映像プロデューサーになっています。

―そこから方針転換をされたきっかけなどはあるのですか？

佐瀬 就職活動をしているうちに、クリエイティブ系も面白そうだけど、もっと経営に深く入り込む仕事もいいかなと思いました。

大学に伝説のコンサルタントと言われていた堀紘一さんが講演でいらっしゃったことがあり、そのお話に感銘を受けたのが大きかったかもしれません。

デロイトに入社

―今や大人気のコンサルティング業界ですが、当時の就職活動はいかがでしたか？

佐瀬　今と違って当時はかなり小さい世界というか、ちょっと変わり者や勝負師的な人が目指す業界という印象でした。デロイト トーマツも社員が１００人いるかいないかくらいでした。

―そうでしたか。私が就職活動をしていた２００４年頃にはかなり人気だと思いました。

佐瀬　その頃は一部の学生の間で人気に火がついてきた感じかもしれませんね。今や弊社も５０００人規模にまで成長していますが。

―１００人が５０００人ですか！そのダイナミズムの中で歩まれたのですね。

佐瀬　でも、入った当時は5年で辞めて起業したいと思っていました。

―ＳＦＣには起業志向を持つ学生が多いですよね。どうして思いとどまられたのですか？

佐瀬　もともと「これで起業したい」というものが明確にあったわけではなく、ただそれくらいが区切りだと思っていただけだったかな、と今にして思います。それよりも、仕事に打ち込んでいるうちにだんだん楽しくなってきたのが大きいですね。

―環境を変えようと思ったときに転職や起業を考える人も多いかと思います。

佐瀬　そうですね。ただ、今の仕事が面白いと思うのであれば続けることで得られるものも多いと思いますし、同じ会社の中でも異動すると全く別の仕事を学べたりもします。転職や起業も選択肢の一つだと思いますが、それしかないと思うのではなく、どういう動機で次のステップに進みたいのか考える必要はあるのかな、と。非連続な成長を得られると思うのであれば、チャレンジしてみる価値はあるかもしれません。

―入社されてからはどんなキャリアを歩まれたのですか？

佐瀬　先程も少し触れましたが、自動車業界を長く担当していました。クライアントに深くコミットすることができ、成長する機会を多くいただきました。

―若くして役員に就任され、43歳で社長に就任されたわけですが、どうしてそれが可能になったと思いますか？

佐瀬　お客様に恵まれたことに加え、チームに恵まれたことも大きかったと思います。かつてコンサルティング業界というと一匹狼が多くて、自分の縄張り意識なども強かったのですが、私がいたチームはそうではなく、皆で助け合いながらいい成果を出していこうという姿勢を持っていたと思います。仲間の成長を願いつつ、お客様に対して誠実な姿勢を貫くことで成果に繋がっていった。その繰り返しで仕事がどんどん育っていったと思います。

Profile

佐瀬真人（させ・まさと）

1976年生まれ。千葉大附属小・中を経て千葉高に入り、サッカー部を退部後は読書を中心に内省的な高校時代を過ごす。慶應義塾大学環境情報学部を経て、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社に入社。2008年に執行役員に、2019年に代表執行役社長に就任。自動車業界をはじめ製造業などを対象としたコンサルティングに従事。著書に『モビリティー革命2030 自動車産業の破壊と創造』（共著：日経BP社）がある。趣味はドライブとランニング。２児の父。

これからの社会像

―経営者として、これから挑戦してみたいことはありますか？

佐瀬　既に取り組み始めているのですが、会社として単に利益を上げることだけを考えるのではなく、社会的なインパクトに繋げていくことを意識するようにしています。特に人材育成には積極的に取り組んでいこうと思っていて、今力を入れているのは、２０２３年４月に開校する神山まるごと高専（徳島県神山町に開校する私立高等専門学校）の支援です。スカラーシップパートナーとして奨学金を支援したり、学校運営の支援であったりと、色々な活動のフォローをしているところです。

―話題の学校ですね。

佐瀬　千葉でも新たな取り組みをやっています。昨年、千葉市を拠点として、診療予約とタクシー配車を繋ぐ医療ＭａａＳアプリを活用した通院サポートプログラムの実証実験を開始しました。千葉市立の病院とタクシー会社、調剤薬局などを結びつけて、移動困難者の通院を支援することで、「治療継続率の向上」、「ＱＯＬ（Ｑｕａｌｉｔｙ ｏｆ Ｌｉｆｅ）向上」を目指す取り組みです。ちなみにこの取り組みをリードしている福島渉執行役員も千葉高出身なんですよ、最近知ったのですが。

―なんと！しかし、色々なセクターを巻き込まれているのですね。

佐瀬　コンソーシアム（複数の企業が「共同企業体」を組成して、一つのサービスを共同で行う取引）を作るというのが今までの形でしたが、これからはここに囚われずに、会社単位の連携の先に、意思のある個人が繋がるコミュニティ・キャピタルのようなものを作っていきながら、どんどん新しいことにチャレンジしていける社会を作っていければと考えています。

―貴重なお話ありがとうございます。最後に、若い後輩へのメッセージをお願いいたします。

佐瀬　皆さん感じていらっしゃると思いますが、世界の変化するスピードは急速に早くなっています。自分の世界を広げられる可能性があると思うのであれば、思い切って飛び込んでみるとよいと思います。ただ、情報がとにかく多い時代ですので、動き回ってばかりいても消耗してしまう可能性も高い。時には動くのを止めてとどまってみて、社会を眺めてみるのもよいかもしれません。そのためにも、より深く考え、深く対象に没入していく力を身につけてほしい。そして、琴線に触れる「何か」があったとき、一気に動いてみる。緩急をつけることを意識してみるとよいかと思います。

―ありがとうございました。

令和５年度 定時理事会報告

令和5年1月21日（土）午後2時定時に母校講堂にて、母校の佐藤晴光校長、川俣正仁副校長、高野勝教頭、君嶋達也事務主幹をお迎えし、理事役員51名、校内事務局の先生方3名の58名が出席して開催いたしました。

コロナウイルスが蔓延している折でもあり、前年同様、受付前に検温と手指の消毒を行い、広い会場内に離れて座っていただきました。

寒い折でしたが、換気のために入り口ドアーや窓を開けておりましたが、学校のご好意で大型の熱風機をご用意いただき、少しは暖かく準備することができました。

川島康行事務局次長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、佐藤校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、会長が議長になり議事にはいりました。

議題は次の4議案でした。

議案1　令和4年度 事業報告

年初1月8日に令和2年卒72期生、9日に平成31年卒71期生成人記念同期会、22日に定時理事会を開催。2月開催の同窓会総会・懇親会を8月に延期（結果的に中止）。続く地域・職域等の葛城会やクラブOB会、同期会等のイベントもほぼすべて中止となりましたが、3月卒業記念品（卒業証書ホルダー）の寄贈、同窓会報51号の発行並びに約5千3百部の個別送付。その他卒業生講演会への協力、令和5年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の開催準備を進めました。

議案2　令和4年度 決算報告 並びに監査報告

左記記載の決算書をご参照ください。

議案3　令和4年度 事業計画

1月7日 令和3年卒73期生成人記念同期会、21日定時理事会開催。2月4日3年振りに総会・懇親会を昼食会として開催しました。3月卒業記念品寄贈。4月同窓会報52号発行並びに5千6百部個別送付予定。6月卒業生講演会（講師は昭和56年卒業生）、その他来年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の開催準備を進めてまいります。

議案4　令和4年度 会計予算

令和4年度会計予算は下記記

報告（2）

2022（令和４）年度　同窓会会計決算書

令和４年１月１日～令和４年12月31日

I. 一般会計

1．収入の部　総額　16,951,511 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
繰越金	2,364,467	2,364,467	0	
同窓会入会金	1,600,000	1,587,500	-12,500	
寄付金	0	355	355	
会報寄付金	1,000,000	1,411,747	411,747	
名簿売上金	0	108,890	108,890	
雑収入	1,000	471	-529	預金利息
特別収入	11,478,081	11,478,081	0	旧同窓会基金※1より繰入
計	16,443,548	16,951,511	507,963	

※1　旧同窓会基金：基金、１３０周年教育環境整備基金、１３０周年記念名簿会計

2．支出の部　総額　4,283,393 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 事業費	3,550,000	3,584,978	-34,978	
卒業記念費	150,000	134,402	15,598	卒業証書ホルダ
会報発行費	450,000	522,500	-72,500	同窓会報51号印刷
会報配布費	800,000	1,146,563	-346,563	同窓会報個別51号個別発送
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校総合学習
学校活動振興費	100,000	60,000	40,000	中学校社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打ち合わせ
支部援助費	300,000	0	300,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	1,200,000	1,245,963	-45,963	71、72期の２年度開催　成人記念同期会
名簿管理システム整備費	350,000	385,550	-35,550	名簿管理システム維持
(2) 運営費	980,000	698,415	281,585	
会議費	100,000	97,495	2,505	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	82,310	117,690	総会理事会資料等印刷
通信費	300,000	330,108	-30,108	総会・理事会案内はがき・電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	50,000	36,916	13,084	ホームページ維持管理・事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局通信機器等整備
雑費	50,000	1,586	48,414	振込手数料
(3) 母校支援金	300,000	0	300,000	部活動支援
(4) 予備費	11,613,548	0	11,613,548	
計 (1)+(2)+(3)+(4)	16,443,548	4,283,393	12,160,155	

3．差引残高（次年度繰越金）　総額　12,668,118 円

II. 同窓会基金

1．収入の部　総額　117,562,234 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
(1) 繰越金	116,915,954	116,915,954	0	旧同窓会基金※2より振替
(2) 特別収入	0	644,494	644,494	石田康治氏遺贈
(3) 雑収入	2,000	1,786	-214	定期預金利息
計	116,917,954	117,562,234	644,280	

※2　旧同窓会基金：基金、清水基金、石田基金、１３０周年教育環境整備基金、１３０周年記念名簿会計

2．支出の部　総額　11,478,081 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 一般会計への繰入金	11,478,081	11,478,081	0	旧同窓会基金※1へ振替
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
計	11,478,081	11,478,081	0	

3．差引残高（次年度繰越金）　総額　106,084,153 円

※3　繰越金内訳　清水基金10,100,844円　石田基金95,983,309円

以上，報告いたします。　令和５年１月１３日

会計：山田千代子

監査の結果，適正であったと認めます。　令和５年１月１６日

監査：山本康博　小澤晃

載の通りです。

活発な質疑がありましたが、各議案とも全会一致で承認されました。

議事終了にあたり、２月４日開催の総会・懇親会は例年と違い昼食会形式での開催とすること、また本来幹事学年である56年卒がコロナ禍で幹事団結成が困難であることに鑑み、前回までの準備を進めてきた共同幹事学年、54・55年卒を中心とする有志によって運営することが発表され、幹事団の御園生理事から挨拶がありました。

令和５年度 同窓会総会・懇親会

令和５年２月４日（土）午前11時30分より京成ホテルミラマーレにおいて、母校の佐藤晴光校長、茂呂崇・川俣正仁副校長、高野勝教頭をお迎えし、同窓会員１２４名が出席して、３年ぶりに開催いたしました。

沢田茂名簿委員長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、佐藤校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、その後１月21日に開催した令和５年度定時理事会で承認された各議案の報告が阿佐幸雄事務局長により行われ、総会は終了しました。

続いて、昭和54・55年卒を中心とする有志幹事団が運営する懇親会に入りました。

未だ続くコロナ禍の中、感染防止対策に万全を期すため、通常10～11人掛けのテーブルに６人の着席。席と席の間はアクリル板で仕切り、アルコール無し、弁当形式での懇親会となりました。

会の後半にはアトラクションとして、54年卒池田知行副会長がフルート、59年卒武井典子さんがピアノの「Duo たけいけだ」による演奏が披露されました。

恒例の校歌も合唱ではなく、旧制千葉中、千葉高の校歌を流し、心の中で歌うという形となりました。

最後に３年間引き渡しが行われなかった幹事年度の盾を、前回令和２年の総会で53年卒から受け取った54年卒御園生博文代表から55年卒木内茂晴代表にリレーし、次回還暦年度で幹事学年となる57年卒吉田節子代表に引き継がれました。

吉田さんからは、来年は世の中が落ち着き以前同様の盛会になるよう準備を進めていく旨、力強い挨拶がありました。

報告（4）

2023（令和５）年度 同窓会会計 予算

令和５年１月１日～令和５年12月31日

【I. 一般会計】

１．収入の部　（単位：円）

区　分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備　考
繰越金	12,668,118	2,364,467	10,303,651	
同窓会入会金	1,600,000	1,587,500	12,500	
同窓会費等	0	0	0	
寄付金	0	355	-355	
会報寄付金	1,200,000	1,411,747	-211,747	
名簿売上	54,000	108,890	-54,890	
雑収入	882	471	411	
特別収入	0	11,478,081	-11,478,081	
収 入 合 計	**15,523,000**	**16,951,511**	**-1,428,511**	

２．支出の部　（単位：円）

区　分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備　考
(1) 事業費	4,304,000	3,584,978	719,022	
卒業記念費	150,000	134,402	15,598	卒業証書ホルダー
会報発行費	550,000	522,500	27,500	同窓会報第52号印刷(7,500部前年同)
会報配布費	1,254,000	1,146,563	107,437	同窓会報第52号個別発送(5,600部)
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校 総合学習
学校活動振興費	100,000	60,000	40,000	中学校 社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打合せ
支部援助費	300,000	0	300,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	950,000	1,245,963	-295,963	73期成人記念同期会
名簿管理システム整備費	800,000	385,550	414,450	名簿管理システム維持
(2) 運営費	1,030,000	698,415	331,585	
会議費	100,000	97,495	2,505	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	82,310	117,690	総会・理事会資料印刷
通信費	350,000	330,108	19,892	総会・理事会案内ハガキ、電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	50,000	36,916	13,084	ホームページ維持管理、事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局什器等整備
雑費	50,000	1,586	48,414	振込手数料等
(3) 母校支援金	300,000	0	300,000	部活動支援
(4) 予備費	9,889,000	0	9,889,000	次期繰越金
支 出 合 計	**15,523,000**	**4,283,393**	**11,239,607**	(1)+(2)+(3)+(4)
次 期 繰 越 金	**9,889,000**	**12,668,118**	**-2,779,118**	
支出合計＋次期繰越金	**15,523,000**	**16,951,511**	**-1,428,511**	（収入合計と一致）

【II. 同窓会基金】

１．収入の部　（単位：円）

区　分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備　考
(1) 繰越金	117,562,234	116,915,954	646,280	清水基金、石田寄金
(2) 特別収入	0	644,494	-644,494	（前年；石田遺贈追加）
(3) 雑収入	1,766	1,786	-20	利息
収 入 合 計	**117,564,000**	**117,562,234**	**1,766**	

２．支出の部　（単位：円）

区　分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備　考
(1) 一般会計への繰入金	0	11,478,081	-11,478,081	（前年；旧同窓会基金①④⑤を一般会計へ振替）
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
支 出 合 計	**0**	**11,478,081**	**-11,478,081**	
次 期 繰 越 金	**117,564,000**	**106,084,153**	**11,479,847**	
支出合計＋次期繰越金	**117,564,000**	**117,562,234**	**1,766**	（収入合計と一致）

チャレンジ応援基金について

県教育委員会では、県立学校が自主的・主体的に実施を希望する取組等を実現するため、地域の住民や卒業生など、様々な方々から応援を受けることができるよう、各学校への寄附金を募集し、その適正な管理を行う**「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」**を設置しました。皆様からの御寄附は各学校が策定した**「教育活動充実プラン」**に基づき活用されます。そこで、本校でも、プランを策定し、教育活動を充実させるため、次の通り、寄付金を募ることといたしました。

【生徒学力向上推進プラン】

グローバル人材の育成及び学力向上を目的として、海外留学や海外研修に係る費用の補助や外部講師による進学用講座に係る費用の補助を行います。

【寄付募集額及び募集期間】

二千万円を目標に、令和五年十二月末日まで募集を行います。寄付の方法等詳細につきましては、千葉県教育委員会ホームページの、「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」のページをご参照ください。

どうか趣旨に御賛同いただき、御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。

千葉県立千葉高等学校

◆学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長
主幹教諭　田中航祐
（平成20年卒）

千葉高校同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。３月に、異例の休校から始まった２０２０年入学生がついに卒業となりました。この３年間は、確かにコロナウイルス感染症の影響を大きく受けた学校生活ではありました。しかし、様々な工夫をこらして、授業に加えて、文化祭や修学旅行をはじめ多くの学校行事を復活、開催し、学校生活を充実したものにすることができました。また、卒業生の方々から生徒たちへご講演をいただく貴重な企画を昨年度も実現することができたことも嬉しく思っております。ご協力ありがとうございました。

令和４年度を振り返った時に印象的だったことがあります。２学期に青葉の森公園にある陸上競技場で体育大会を行ったのですが、その最後に、上述の２０２０年入学生が３学年として学年全員で集合写真を撮りました。その時に職員、生徒が皆、本当に素晴らしい笑顔で、制限された学校生活に対するネガティブな思いを全て吹き飛ばすような本当にいい写真でした。コロナに翻弄される状況にいちいち悲観的になりすぎることなく、その都度、柔軟に対応し、充実した学校生活を作り上げてきた３年間が結実しているようでした。生徒たちの笑顔を見ていると、「コロナでかわいそうな目にあった今の生徒たちは・・・」と言うのはもうやめよう、そんなことを言っていてもしょうがない、色々な状況を乗り越えてきたではないか、と勇気をもらいます。

そのコロナも少し落ち着きを見せ、マスクをつける生活もまた変わっていくことが見込まれます。コロナに限らず、気候変動も毎年激しさを増し、不安定な国際情勢とそれに伴う物価上昇も進行しています。先が見えず、苦しいと感じることもあるかもしれませんが、上述したように千葉高の生徒たちの柔軟性とレジリエンスを見習って、変化を恐れず、日々の教育活動に邁進したいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

葛城だより

◎令和四年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

（ご連絡のあった方のみ掲載）

瑞宝双光章　市原利久（昭28）
瑞宝双光章　鎌田慶市郎（昭28）
瑞宝中綬章　林　孝二郎（昭39）
紫綬褒章　長谷部光泰（昭56）
〈敬称略・卒業年順〉

◎逝去者（役員・理事）

謹んでご冥福をお祈りします。

（ご連絡のあった方のみ掲載）

高橋登志男（昭15）４年９月17日
千葉滋胤（昭26）４年４月20日
松村　洽（昭31）４年12月24日
中台　誠（昭32）４年４月24日
大野　實（昭33）４年４月９日
櫛部健夫（昭44）４年５月28日
〈敬称略・卒業年順〉

題字揮毫　辻元大雲氏
本名：洋一　昭和37年卒